



マルチカム | バージョン 21.2.41

リリースノート

2026年5月

著者 | ロバート・チャーズ Eメール |
r.chares@evs.com

コンテンツ法的通

知 2

警告 4

新機能 5

バグ修正 11

既知の問題と制限事項 28

 問題点 28

 制限事項 31

互換性 39

 ソフトウェア 39

 ハードウェア 39





法的通知

本製品はEVS Broadcast Equipment SAまたはEVSグループのその他の関連会社（以下「EVS」）によって提供され、EVSソフトウェアライセンス契約（https://evs.com/sites/default/files/2021-04/Software_License_Agreement.pdfで入手可能）が適用されますのでご注意ください。またはご要望に応じて適用される追加規約やポリシーとともに。

本製品をインストール、複製、またはその他の方法で使用するにより、お客様は上記の条件に拘束されることに同意するものとします。

免責事項

本リリースノートおよび本リリースノートに含まれる情報は、EVS Broadcast Equipment SAおよび／またはその関連会社（以下「EVS」）の独占的な財産であり、明示的または黙示的な保証（商品性および特定目的への適合性に関する黙示の保証を含むが、これらに限定されない）なしに「現状のまま」提供されます。特に、EVSは、本リリースノートおよび本リリースノートに含まれる情報の使用または使用の結果に関して、いかなる保証も行いません。さらに、EVSは、本リリースノートおよび本リリースノートに含まれる情報の通常または異常な使用から生じる、いかなる種類の直接的または間接的、偶発的、懲罰的または結果的な損失、損害、費用または支出についても、たとえそのような損失、損害、費用または支出の可能性を知らされていたとしても、一切責任を負いません。

本リリースノートに記載されている情報は、正確性、最新性、信頼性を確保するためにあらゆる努力を払っておりますが、EVSは本資料に記載されている不正確な情報や誤りについて一切責任を負いません。本リリースノートの情報は、情報提供のみを目的としており、予告なく変更される場合があります。

このリリースノートは、以前のすべてのバージョンを無効にし、置き換えるものです。

著作権

著作権 © 2003-2025 EVS Broadcast Equipment SA. 全著作権所有。

本リリースノートは、EVSの事前の書面による同意なしに、全体または一部を複製、転記、保存（データベースまたは検索システムへの保存）、いかなる言語、コンピュータ言語への翻訳、電子的、機械的、印刷、複写、光学的、手動その他いかなる形式または手段によっても送信することはできません。

商標

すべての製品名およびブランド名は、EVSまたはそれぞれの所有者の登録商標または商標です。

改善要望

皆様からのご意見は、ドキュメントの品質向上に役立ちます。改善のご要望、または本リリースノートにおける誤りや不正確な点のご報告は、担当プロダクトオーナー（トップページに記載されているメールアドレスを参照）までメールにてお送りください。



地域連絡先

詳細なウェブページはこちらをご覧ください： 以下の住所と電話番号のリスト

<https://evs.com/contact/offices>

EVSウェブサイトのリリースノート

最新版のリリースノート（存在する場合）およびEVS製品に関するその他のリリースノートは、EVSダウンロードセンターの次のウェブページ（<https://docs.evs.com/>）で入手できます。



警告

Multicam 21 XT-VIA、XS-VIA、XT-GOのみに対応しています。

- > 安定性とパフォーマンスを向上させるため、現在Multicam 16を実行しているXT-VIA、XS-VIA、およびXT-GOサーバーは、Multicam 21にアップグレードすることを強くお勧めします。
- > M4Xを搭載したサーバーの場合、BIOSをバージョン**MA50R938**にアップグレードすることをお勧めします。
この操作を行うには、EVSサポートにご連絡ください。
- > XHub-VIA ハードウェア リビジョン A3 で Variscite モジュール (SN 510000 以上) を搭載している場合は、Multicam 20.4.31/XHub-VIA 1.4 以上が必要です。
- > 10K9ドライブを搭載したサーバーの場合、ファームウェアをバージョン**C0D8** (ST1800MM0129の場合)または**N0D8** (ST1200MM0009の場合)にアップグレードすることを強くお勧めします。

Multicam 21 Multicam 20以前のバージョンと比較して、LinXに異なるTCP/UDPポート範囲を使用します。

Multicam 21 Multicam 20以前のバージョンとは異なるSNMPコミュニティ文字列を使用します。

- > XHub-VIA Live IP 100G Enablerを100Gで使用するには、XTのSFPインターフェースのキャリブレーションが必要です。
詳細についてはEVSサポートにお問い合わせください。
- > M4Xを搭載したサーバーの場合、すべてのシリアルコントローラをサポートするために、Multicamセットアップのハードウェアチェックメニューでボードファームウェアを手動でアップグレード (バージョンM4X_02)することをお勧めします。詳細については、Multicamインストールマニュアルを参照してください。



新機能

1937年2月21日

XT-VIAについて

オーディオ分割でプレイリストを編集する際のLSM-VIAのカット開始のサポート

2021年2月30日

XT-VIA, XS-VIA, XT-GOについて

クリップ再生制御のためのAdvanced Media Protocol (AMP) のサポート
マルチカムWeb設定のパスワード保護のサポート
デフォルトでマルチカムWeb設定にセキュア通信 (HTTPS) を使用

XT-VIAについて

1080i の新しい IO 構成

XT-VIAおよびXT-GOについて

最大10台のサーバーによるXNet-GOネットワークのサポート

2021年1月21日

XT-VIA, XS-VIA, XT-GOについて

ST 2110使用時のSDIでのMV4Xモニタリングをサポート
SLSMレコーダーの複数の補助データストリームをサポート
最新のSeagateディスクファームウェアC0A9およびN0A9をサポート
設定行のコピー/ペーストにLive IP設定が含まれる
LSM-VIAでE/E接続時にプレーヤーのブラックスクリーン効果が削除される
LSM-VIAワークフローでクリップUmlDが保護される
チャンネル制御なしでIPDirectorでクリップDB同期を有効にする

XT-VIA, XS-VIAについて

X-SAS-HDX2外部ディスクアレイのサポート
ネットワークコピー/プッシュのデフォルト設定 (F5キーを押す)はXNetです

XT-VIAについて

1080i の新しい IO 構成 詳細については、

「LiveCaption Signature Production Servers 構成概要」を参照してください。



IN 21.0.24

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

VIAライセンスのサポート LSM-VIA

リモートワークフローのためのデュアルPC-LANのサポート

NMOS IS-04 v1.3 のサポート NMOS

IS-05 v1.1 のサポート SNMP 読み取り専

用コミュニティ文字列の更新安全なリモートシステムアクセス用の

SSH キーのサポート LinX で使用される TCP/UDP ポートの更新 PTP フレーム

レートが一致しない場合の LTC 使用時の PTP ステータス

の見直し

XT-VIAについて

Sportlight/SpotboxからMulticamへの柔軟なサーバーアップグレード

2020年7月29日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

ProRes-4Kコーデックのサポートマルチカ

ム構成でLSM-VIAの動作設定を非表示にする

NMOSでMVオーディオ送信者を非表示にする

ライブIPインターフェースのIP構成の改善

XT-VIAおよびXS-VIAについて

Fill & Key 0-REC構成におけるプロキシエンコーディングのサポート最大42台のサーバー

によるXNet-VIAのサポート

XT-VIAについて

UHD-4KにおけるSLSMx4の完全サポート 1080i

および1080pにおける新しいIO構成

詳細については、LiveCepion Signatureプロダクションサーバー構成概要を参照してください。

XS-VIAについて

XSenseベース構成におけるLSM-VIAコントローラのサポート

XT-GOについて

1080pにおける新しいIO構成

詳細については、LiveCepion Pure Production Servers構成概要を参照してください。

1935年6月20日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

ST 2022-6では、マルチビューワーの入出力はSDIのみで利用可能です。

XT-VIA、XS-VIAについて

100G Enablerを搭載したST 2022-6では、QSFPインターフェイスは同じVLANにバインドされます。



2021年6月20日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

Multicam実行中のLive IP構成のエクスポート NMOS IS-04モニタリンググループ Live IP構成に新しいプロトコル構成タブを追加 SFP+ポートへのLive IPビデオストリームの新しいデフォルト割り当て

XT-VIAについて

UHD-4KにおけるSLSM4xのサポート
UHD-4Kにおける新しいIO構成
詳細については、LiveCeption Signatureプロダクションサーバー構成概要を参照してください。
XT-GOについて
1080iおよび1080pにおける新しいIO構成
詳細については、LiveCeption Pure Production Servers構成概要を参照してください。

1937年5月20日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

TGE2ボードのサポート (ハードウェアリビジョン6.40)

2020年5月25日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GO においてライブ

IP 設定を CSV ファイルとの間でインポート/エクスポート OpenMetrics によるサーバー メトリクスのサポート

XT-VIA、XS-VIA の場合 SDI

におけるサーバーチャンネルごとの 24/32 モノラルのサポート H.264 プロキシ ストリーミングの有効化と設定

XT-VIAについて

1080iおよび1080pにおける新しいIO構成
詳細については、LiveCeption Signatureプロダクションサーバー構成概要を参照してください。
XT-GOについて
最大 4 つの Fill & Key チャンネルを備えた Fill & Key ベース構成のサポート 1080i および 1080p の新しい IO 構成詳細については、LiveCeption Pure Production Servers 構成概要を参照してください

20.4.31

XT-VIA、XS-VIAについて

Varisciteモジュールを搭載したXHub-VIAのサポート



2020年4月27日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

自然なグループ化のための NMOS グループヒントタグのサポート Live IP での
クリーンなスイッチングのための垂直アライメントのサポート XHub-VIA 100G イネーブ
ラーなしでも 4 ストリーム 1080p 50Hz のサポートマルチカムおよび Live IP 構成にアクセスするための安全な
通信のための HTTPS のサポートクリックジャッキングからの保護 Live IP での IP-Edit Live to-Tape のサポート

XT-VIA、XS-VIAについて

XNet-VIA を介して遠隔ネットワークレコーダーを再生する際のライブ配信までの遅延を短縮 (500 ms) 最大 6 つの Fill & Key チャン
ネルを備えた Fill & Key 基本構成をサポート 100G を介した Live IP セットアップへの統合を向上させる
ため、XHub-VIA 100G イネーブラーでの NAT をサポート 1080i および 1080p での Fill & Key の新しい IO 構成

詳細については、LiveCepion Signatureプロダクションサーバー構成概要を参照してください。

XT-VIAについて

LSM-VIAを使用してローカルおよびネットワークレコーダーをライブ再生する際のレコーダーギャングのサポート 1080iおよび1080p
における新しいIO構成

詳細については、LiveCepion Signatureプロダクションサーバー構成概要を参照してください。

XT-GOについて

1080i および 1080p における新しい IO 構成詳細については、
LiveCepion Pure Production Servers 構成概要を参照してください。

2020年3月26日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GOについて

デュアルPC-LAN

2021年3月20日

XT-VIA、XS-VIA、XT-GO の場合 ST

2110-31 のサポートレコーダーのラ
イブ IP オーディオモニタリングゲンロック PTP を使用した
アナログ LTC のサポート 10+2 RAID 構成のサポート

XT-VIAおよびXS-VIAについて

1080pでのメイク・ピフォア・ブレイクを可能にする設定の追加サムネイル作成専用の新
しいffmpegプロセス

XT-VIAについて

1080iおよび1080pにおける複数のSLSM速度を組み合わせた新しいスーパーモーション構成 1080iおよび1080pにおける新しいIO構成

詳細については、LiveCepion Signatureプロダクションサーバー構成概要を参照してください。



XT-GOについて

1080iおよび1080pにおける新しいIO構成

詳細については、LiveCepion Pure Production Servers構成概要を参照してください。

20.2.30

XT-VIA, XS-VIA, XT-GOについて

ST 2110-30 (オーディオ over IP) のメイク・ピフォア・ブレイク切り替えのサポート ST 2022-7 で動作時の MV4X 入力フェイルオーバーのサポート PTP カスタムオフセットのサポート 堅牢性向上のための NMOS を独立したプロセスとしてサポート NMOS IS-05 における送信側と受信側のスケジュールされたアクティベーションのサポート MV4X 入力ステータスの表示 10K9 4Kn ドライブ用のディスクファームウェアアップグレードが利用可能

XT-VIA, XS-VIAについて

1, 1.5 (デフォルト) , 2 Mbpsのビットレートでのプロキシh.264のサポート

XT-VIAについて

新しいIO設定

1080iおよび1080pにおける新しい通常およびスーパーモーション構成

XT-GOについて

LSM-VIAコントローラのサポート

オーディオスワップとオーディオ分割のサポート LSM-GO

での画面分割のサポート新しいIO設定

1080iおよび1080pにおける新しい通常およびスーパーモーション構成

20.1.27

XT-VIA, XS-VIA, XT-GOについて

ライブIPネットワークインターフェースのDHCPサポート ST2110-40ス

トリームの入カストリームステータスの表示

SNMPによるPTPステータス監視 Live IP構

成におけるRTPペイロード、パケット時間、NMOSおよびEmber+サービス SFPインターフェースごとに1つのIPアドレ

スを使用する場合のユニキャストのサポート Shift+F5監視によるLive IPインターフェース帯

域幅監視

XT-VIA, XS-VIA の場合

XNet-VIA で 34 台のサーバーをサポート XNet-VIA

で 64000 個のネットワーク クリップをサポート XHub-VIA IP アグ

リゲーターを使用した Live IP でのオプションのソース フィルタリング Multicam 16.6 で動作

するサーバーとの SDTI 互換性

XT-VIAについて

新しいIO設定

1080i, 1080p, および1080pからUHD-4Kへのアップスケールにおける新しいスーパーモーション構成



XT-GOIについて

Sportlight ベース設定におけるシリアルコントローラプロトコルのサポート新しい IO 設定

1080iおよび1080pにおける新しい通常およびスーパーモーション構成

IN 20.0.13

不安定なPTP信号に対する内部クロックの堅牢性の向上

IN 20.0.2

XT-VIAについて

LSM-VIAコントローラのサポートデュアルLSM

では、プロトコルをプライマリコントローラとして構成できます

XT-VIA.XS-VIA の場合 IPD-

VIA コントローラのサポート 100G 経由の

Live IP 用 XHub-VIA Live IP 100G イネーブラーのサポート XHub-VIA Live IP アグリゲーター

使用時の 59.94 Hz での UHD-4K シングルストリームのサポート 720p,1080i,1080p での SDI での EditRec のサポート

Multicam 16.5 で動作するサーバーとの SDTI 互換性

XT-VIA.XS-VIA.XT-GOIについて

帯域幅が許す場合のST 2110-20のメイク・ビフォア・ブレイク切り替えのサポート [DNS](#) -SDによるユニキャストNMOS検出の

サポート [V4X](#) SFPインターフェースごとに1つのIPアドレス [ST](#) 2110でのMV4X

マルチビューアIP入力サポート補助データ (ST 2110-40)

用のST 2022-7のサポート



バグ修正

IN 21.2.41

- > NMOS IS-04では、ユニキャストDNS-SDを使用したリソース登録が失敗する場合があります (MUL-29029)
 - > NMOS IS-04をDNS-SDを使用したデュアルPC-LANで使用的場合、サーバーが満杯になった後、ルートが作成されない場合があった。
HS-873 (MUL-28913)を搭載したサーバーを再起動してください。
- 同じ設定で XFile3 を使用している場合、LSM-VIA でサーバー チャンネル名の変更が動的に更新されない場合があります (MUL-28821)

LSM-VIAでは、クリップが短いインの前にキューイングされたり、短いアウトを超えて再生されたりすることがありました。
ガードバンド (MUL-28942)

- > LSM-VIA では、XFile3 を介してクリップを復元すると、クリップの状態が時々増加し続けることがあります (MUL-28972)
- LSM-VIAでは、オーディオの入れ替えを追加すると、プレイリストの再生時間に影響が出る可能性があります (MUL-28980)。
- > Sentinel サービスが正しく初期化されなかったため、Multicam を起動できない場合があります。
システム起動プロセス (MUL-29019)
- > Evs.Nmos.Servicesによって発生する信号セグメンテーション障害を防止するための保護機能が追加されました (MUL-28866)。
- > MainBgTaskによって生成されるSignal Abortedイベントを防止するための保護機能が追加されました (MUL-29003)。

1937年2月21日

LSM-VIAでは、キーフレーム上の最初のオーディオトラックのミュートを解除すると、他のすべてのトラックもミュート解除されました。
(MUL-28720)

- > -VIA では、複数のキーフレームでオーディオ分割とオーディオスワップを含むプレイリストを編集する場合、
同じキーフレーム上に複数のオーディオスワップタグを定義できるようになった (MUL-28697)
- > mDNSを使用するデュアルPC-LANでNMOS IS-04を使用した場合、レジストリが複数のIPアドレスを公開すると、エンドポイントがRDIに登録されない
という問題が発生しました (MUL-28718)。

静的 RDI 構成を使用したデュアル PC-LAN で NMOS IS-04 を使用すると、エンドポイントを登録できませんでした。
RDI (MUL-28723)

- > NMOS IS-04 では、/self ルートのクロック バージョン情報が間違っていました (MUL-28499) DNS-SD を使用する
NMOS IS-04 では、RDI が api_auth をアドバタイズしない場合、エンドポイントが登録されませんでした
TXTレコード (MUL-28724)

ST 2110-40では、補助データストリームに次のようなパケットが含まれている場合、クローズドキャプションが中断される可能性があります。
6行目またはそれ以前の空白スペースに挿入されます (MUL-28787)

- > IPDirectorで、複数のPGMがLSM RemoteまたはLSM-VIAによって制御されている状態で、1つのPGMにプレイリストをロードすると、E/Eコマ
ンドがすべてのLSM制御PGMに適用されました (MUL-27262)
- > MV4Xボード (MUL-28523)から監視メトリクスを取得する際のシステム遅延を防ぐための保護機能が追加されました。
- > マルチカム (MUL-28817、
MUL-28900)
- > まれに発生するUCode例外を防ぐための保護機能が追加されました (MUL-28826)。
- > multicamによって発生する信号中断イベントを防止するための保護機能が追加されました (MUL-28686)。

IN 21.2.32

ST 2110-40では、補助データストリームに異なるパケットが含まれている場合、クローズドキャプションが中断される可能性があります。
HANC スペース内の同じ行に挿入されるタイプ (MUL-28590)

- > では、プレイリストにクリップが含まれている場合、フラット化プレイリストジョブが失敗することがあります。
以前にLSM-VIA (MUL-28688)でコピーまたは移動された

大規模ネットワークで XNet-VIA を使用すると、ネットワークが原因で XNet マスター選出が時折トリガーされる可能性があります。
不具合 (MUL-28664、MUL-28669)

- > snmpsrvによって生成されるシグナル中止イベントを防止するための安定性向上策が追加されました。
(MUL-28135)
- > Multicam (MUL-28741)によって発生する信号セグメンテーション障害を防止するための保護機能が追加されました。



- > MainBgTaskによって発生する信号セグメンテーション違反を防止するための保護機能が追加されました (MUL-28698)。
- > RAIDアクセス問題を引き起こす可能性のある稀な競合状態を防止するための保護機能が追加されました (MUL-28711)。
- > リモートサーバーがXNetネットワークから切断された後に記録的な列車が停止する可能性がある、まれな競合状態の発生を防ぐための保護機能が追加されました (MUL-28625)。
- > Cerebrum でマルチカム構成の変更が正しく更新されませんでした (MUL-28622)

2021年2月30日

- > ST 2022-7を使用したUHD-4K環境において、IPバッファの帯域幅が飽和した場合、両方のネットワークインターフェースでパケットがドロップされる問題が発生した (MUL-27834)。
- > Live IP環境において、XHub-VIA 100G EnablerとST 2022-7を使用した場合、セカンダリQSFPリンクを切断した際に出力信号が一時的にちらつくことがあります (MUL-28329, MUL-28398)。
- > Live IPにおいて、XHub-VIA 100G Enablerを使用した場合、UHD-4K信号を1080iまたは1080pレシーバーにルーティングすると、すべての入力チャンネルに影響が出る可能性があります (MUL-28304)。
- > Live IPにおいて、XHub-VIA 100G Enablerを使用した場合、入力ストリームの切り替え時にマルチキャストルートが削除されないことがあり、その結果、XHub-VIAとXTサーバー間のトラフィックが増加するという問題が発生しました (MUL-28361)。
- > Live IP では、1080i または 1080p の SLSM 構成から UHD- の別の構成に変更する場合、4Kで平方除算または2SIを使用する場合、補助データストリームのリストが間違っていました (MUL-27884)。
- > Live IPにおいて、DHCPを使用している場合、ネットワークスイッチでスパニングツリーが使用されていると、インターフェースのIPアドレスを取得できない場合がある (MUL-27986)。
- > ST 2022-6では、出力信号にビデオ遅延のずれやRTPアラインのずれが生じる可能性がある (MUL-28362)。
- > NMOS IS-04では、サーバーの起動時にネットワークインターフェイスが取得されなかった場合、ポート3000でリソースが利用できないことがありました (MUL-28475)。
- > -VIAでは、クリップのINポイントを更新してからそのクリップを素早く呼び出すと、クリップが古いINポイントにロードされることがありました (MUL-26769)。
- > LSM-VIAでオーディオ分割を使用している場合、非常に短いクリップをプレイリストに追加すると、失敗することがあります (MUL-28243)
- LSM-VIAでは、表示されるプレイリストの残り時間がフレーム単位で正確でない場合がありました (MUL-28299)。
- > IPDirector をメイン/バックアップ構成で使用すると、クリップ DB の同期が時々失敗することがあります (MUL-28387)
- LSM-VIAでは、オーディオスワップタグがドットフィールドに設定される場合がある (MUL-28428)
- > LSM-VIAでは、オーディオ分割を使用するプレイリストに対して、TC-INによるソートが受け入れられました (MUL-28597)
- > ABRollをメイン/バックアップ構成にしている場合、プレイリストに複数のクリップを追加すると、メインとバックアップの状態が同期しなくなることがありました (MUL-27771)。
- > Web設定からディスククリア操作を開始できませんでした (MUL-28159)
- > Multicam OSD が Multicam ログ抽出中に一時的にフリーズする可能性がある (MUL-28360) SLSM コンテンツを100%で再生すると、再生が即座に開始され、非 SLSM コンテンツと比較してバリエーションと 1 フィールドの同期ずれが発生する (MUL-28253)

LSM Remoteを使用して遠隔プレイリストをロードすると、OSDが破損する可能性があります。

- ネットワーク画面 (F9)を開き、ESCキーを押します (MUL-28325)。
 - > では、チャンネルコントローラのアップデートが失敗する可能性があります (MUL-28181)。
- オプションコード103を追加または削除した際に、関連するオプションコード104～109は追加/削除されませんでした。
自動的に (MUL-28961)
- ⇒時ライセンスがインストールされていて、それが同じ日に期限切れになる場合、Multicam が起動しない可能性があります (MUL-28067)
- ウェブ設定はTCPポート8559および8560経由でアクセス可能でした (MUL-28271)

2025年1月21日

- > Live IPでは、アクティブな継続ビットを持つIPビデオストリームでエンコードの問題が発生する可能性があります (MUL-28357)。

2024年1月21日

- LSM-VIAでは、Char OUTモニタリングにタリが表示されません (MUL-28281)。
- LSM-VIAでは、クリップをネットワーク経由でコピーしながら移動する際に、移動操作がまれに失敗する場合があります (MUL-28247)。
- > において、シリアル番号とハードウェアバージョンが誤って表示される場合がありました (MUL-28227)。



- > UHD-4Kにおいて、ワイプトランジションを含むプレイリストを読み込む際に、出力画面の右端に細い白い線が表示される現象が発生した (MUL-28045)。
- ウェブ設定が読み込まれない場合があります (MUL-28023)
- > VIA ライセンスがインストールされ、Cerebrum が XTサーバー (MUL-28189)に接続しました
- クリップをあるサーバーから別のサーバーに移動する際、転送が完了するまでクリップ転送の進行状況は0%と表示されます。完了しました (MUL-28295)
- > レコーダーにおけるプロキシエンコードの問題 (MUL-28186)を防止するための対策が追加されました。
- > サーバー起動時にHXXボードをリセットする際のエラーを防止するための保護機能が追加されました。 (MUL-28216)
- > 補助データを含むコンテンツを再生する際に、時折発生する再生時のアーティファクトを防ぐための保護機能が追加されました (MUL-28313)。

2021年1月21日

- LSM-VIAでは、分割音声を使用している場合、プレイリスト要素を削除できませんでした (MUL-27561)。
- > LSM-VIA では、IPDirector (MUL-27512)
- 到達できない DNS サーバーを設定すると、ログ抽出に時間がかかる場合があります (MUL-26520)
- > Live IPでは、対応するST 2110-20受信機が になっていなくても、ST 2110-40受信機をアクティブにすることが可能でした (MUL-27888)。
- 設定行を開始した際、Multicamの起動画面がグレースクリーンのまま停止してしまうことがありました (MUL-28174)。
- XNet-VIAおよびXNet-GOでは、クリップ編集機能にアクセスするにはオプションコード117が必要でした。ネットワークパラメータによる (MUL-27769)
- MainBgTaskによって発生する偶発的な信号セグメンテーション違反を防ぐための保護機能が追加されました。 (MUL-27785,MUL-27957)

IN 21.0.28

- LSM-VIAにおいて、GPI INを遅延付きで設定した場合、GPI信号が無視される問題がありました (MUL-27990)。
- > LSM-VIA では、クリップ グループをあるサーバーから別の空の場所に移動する場合、新しいクリップグループには、追加のカメラアングルが含まれていました (MUL-28145)。
- > PTPの以前のジャムのローカルオフセット値が欠落している場合にTCジャンプを回避するための保護機能が追加されました。 (MUL-28157)
- 時的なRTCクロック読み取りの問題が発生した場合、時刻改ざんエラーメッセージが表示されることがありました。 (MUL-28034)
- > Linuxカーネルのログが利用できない場合があった (MUL-27977)。
- > ビデオコーデックFPGAが動作していないため、Multicamが起動できない場合があります (MUL-27970)
- > 上位バージョンのMulticamからダウングレードした後に無効な設定行が発生しないようにするための保護機能が追加されました (MUL-27815)。
- > サーバー起動時にまれに発生する信号セグメンテーション障害を防止するための保護機能が追加されました (MUL-27959)。
- > RAIDの破損によってMulticamが起動できなくなる事態を防ぐための保護機能が追加されました。 (MUL-27843)
- > システムの日付がランダムにジャンプするのを防ぐための保護機能が追加されました (MUL-27979)。

IN 21.0.27

- > では、プレイリストが読み込まれている場合、白黒クリップをプレイリストにキューイングすることはできませんでした。以前はLSM-VIA (MUL-26616)によって製造されていました。
- > LSM-VIAをIPDirectorをセカンドコントローラとして使用し、GPI経由でプレイリストをトリガーすると、トランジション効果が無視される場合があった (MUL-27173,MUL-27801)。
- > 1080iおよび1080pでは、SLSMx4入力のIO構成においてProResは許可されていませんでした (MUL-27833)。
- > UHD-8Kでは、ワイプトランジションを含むプレイリストを再生する際に、サーバー出力に縦線が表示される場合があります。 (MUL-27775)
- > SNMPを使用している場合、ディスクを切断しても監視ステータスが更新されない (MUL-27792)
- > PC-LAN構成において、DNSドメイン名に文字「d」が使用できないという問題が発生していました (MUL-27893)。



- > XNet-VIA使用時のシステム応答不能エラーを防止するための保護機能が追加されました (MUL-27865)。

IN 21.0.24

TGE2ボードを搭載したサーバーでは、H4Xボード上の接続が最適ではないため、Mulboot中にボードが検出されない場合があります (MUL-27636)。

ESM-VIAでは、クリップグループをある場所から別の場所に移動、プッシュ、またはコピーした後、クリップ角度が更新されない場合があります (MUL-27139)。

ESM-VIAでは、SLSMクリップの と再生ができませんでした (MUL-27225)。

- > -VIAでは、XSense基本構成をアクティブ化してもLSM-VIAパラメータが動的に表示されませんでした。 (MUL-26571)

ESM-VIAを使用すると、マルチレビュー レコーダーの監視では、構成によっては破損した画像が表示される可能性があります。 1080i対応の複数のSLSM「On-3G」入力 (MUL-27296)

ESM-VIAでは、Odetics.VDCP、またはDD35経由でプレイリストを読み込む際に、現在オンエア中のクリップが正しく表示されませんでした (MUL-27645)。

- > LSM-VIA では、別のオペレーターがコンテンツを閲覧している間にプレイリストをキューイングまたはイジェクトすると、出力チャンネルが一時的にフリーズする可能性がある (MUL-27697)

ESM-VIAとVIA MAPは、ローカルサーバーが多い別のサーバーの場合、XTサーバーから切断されることがあります。 clipsがXNetネットワークに参加または離脱しました (MUL-27727)

- > VIA MAPでは、クリップ作成時にクリップ作成の進行状況が表示されない (MUL-27507)
- > XHub-VIA 100G EnablerとEmber+ BESSを併用した場合、QSFPのIPアドレスが誤って表示される問題がありました (MUL-27132)。

- > NMOS IS-04において、デュアルPC-LANを使用する場合、DNSが別のネットワークに設定されている場合、DNSに到達できないことがありました (MUL-27389)。

NMOS IS-04では、NMOSノードのリソースバージョンがリソースのバージョンと一致しない場合があります。

RDI (MUL-26899)に登録済み

- > NMOS IS-04では、最初のMulboot中にXhub-VIA IP Enablerが検出されなかった場合、構成ラインを開始する際にNMOSノードでリソースが公開されませんでした (MUL-27232)。

- > NMOS IS-04では、フローDIDおよびSDID情報が欠落している場合があります (MUL-27018)。

- > NMOS IS-04/IS-05 では、送信側/受信側のアクティブ パラメータの一部を更新すると、エンドポイントのバージョンが値が増加しませんでした (MUL-26870)

NMOS IS-05では、エンドポイントのアクティベーション詳細「requested_time」と「mode」が欠落している場合があります (MUL-26890)

- > UDPポートの使用状況の競合が原因で、XSquareジョブが失敗する場合があります (MUL-27216)

- > DspUart (MUL-27537)

Mulsetupによって発生する偶発的な信号分割障害を防ぐための保護機能が追加されました。 (MUL-27461、MUL-27757)

snmpsrvによって発生する偶発的な信号分割障害を防止するための保護機能が追加されました。 (MUL-27455)

MainBgTaskによって発生する偶発的な信号セグメンテーション違反を防ぐための保護機能が追加されました。 (MUL-27462)

- > Evs.Hammer.Services.HttpServer によって発生する可能性のある信号セグメンテーション違反を防止するための保護機能が追加されました (MUL-27447)

- > ItRTPrciによって発生する偶発的な信号分割障害を防止するための保護機能が追加されました (MUL-27751)。

- > VGA画面に時折表示されていたメッセージ (「checkLogSize.sh」) を非表示にするための保護機能が追加されました (MUL-27174)。

- > サーバーがXNet-VIAネットワークから意図せず切断された場合に、レコーダーが停止するのを防ぐための保護機能が追加されました (MUL-27524)。

- > では、名前に漢字が含まれているクリップを復元する際に、名前の一部が切り捨てられることがありました (MUL-27548)。

- > SNMPでは、PTP GMクロックIDはリトルエンディアン形式 (MUL-27337)で表現されます。



1933年7月20日

- TGE2を搭載したサーバー、またはXHub-VIA 100Gを使用しているサーバーに存在するOpenSSHの重大な脆弱イネーブラーがroot権限での任意のコード実行を可能にする可能性がある (MUL-27422)
- 「ネットワークによるクリップ編集」が「いいえ」に設定されていても、SDTI ネットワーク上でクリップを削除することは可能でした。再起動 (MUL-27351)
- クリップを削除した直後に復元すると、VGA画面に表示される作成パーセンテージはそのまま残ります。復元が完了するまで0%のままでした (MUL-27307)
- 競合状態により、サーバーの再起動時にVITCが断続的に欠落する可能性がある (MUL-27233)
- TGE2ボードを搭載したサーバーでは、TGE2ボードの再起動に2回目の再起動が必要になる場合があります。正しく検出される (MUL-27115)
- > XHub-VIA 100G Enablerを使用したLive IPでは、PTPの安定性が向上し、ロック状態が失われるのを防ぐようになりました (MUL-27358、XHUBVIA-608)。
- > コピー中のXNetリモートクリップが0%で停止している (つまり、読み取り時にコンテンツが復元されていない) 状態で再生すると、ソースサーバーがクラッシュする可能性があります (MUL-27395)。
- > Mulboot終了時の競合状態によって引き起こされる信号セグメンテーション障害を防止するための保護機能が追加されました (MUL-27336)。
- 一時的な通信障害発生時のXNet-VIAネットワークの堅牢性が向上しました (MUL-27041)

2020年7月29日

- > -VIAでは、DHCP経由でLive IPネットワークインターフェイスを設定できない場合にエラーメッセージを検証することができませんでした (MUL-27059)。
- > -VIAでは、XSquareで修復されたクリップが成長し続ける場合があった (MUL-26956)。
- ESM-VIA搭載 では、すべてのレコーダーを再起動すると、再生が一時的に停止することがありました (MUL-25300)。
- ESM-VIAでは、クリップを空の場所にコピーする際に失敗する場合があります (MUL-26749)。
- > では、WebSocket書き込みエラーが原因でアーカイブジョブが失敗する場合があります (MUL-26768)。
- > WebSocket書き込みエラーによって一部のLSM-VIA操作が失敗するのを防ぐための保護機能が追加されました (MUL-26715)。
- > NMOS IS-05では、F&K構成においてキーエンドポイントを更新できませんでした (MUL-27117)
- > NMOS IS-04では、送信機のオーディオチャンネル数がソースのオーディオチャンネル数と一致しませんでした (MUL-26936)
- > NMOS IS-04では、ST 2022-6ストリームにRTPペイロード98がタグ付けされませんでした (MUL-27061)
- > Live IPにおいて、0-REC構成から少なくとも1つのPGMを含む構成に変更した場合 (またはその逆の場合)、サーバーがPTPにロックされない問題がありました (MUL-27158)。
- XTAccessでクリップをバックアップしている際に、TGEが応答なくなり、リセットが必要になる場合があります。理事会の (MUL-25971)
- > VarIDが%で始まるクリップを作成する際に発生する信号セグメンテーション違反を防止するための保護機能が追加されました (MUL-27156)。
- > オプションコードのリストをインポートした後、オプションコード管理タブにそれらが表示されるようにするには再起動が必要でした (MUL-26458)。
- > Multicam Web 設定で、インターフェースを XiP に変更すると、Genlock を設定できませんでした。PTP (MUL-25999)
- > MulsetupからRAID構成メニューを開いたときにVGA Viewer接続が失われました (MUL-26087)
- > Multicam Webの設定において、新しくインストールされたライセンスが考慮されない場合があった (MUL-25726)。

オプションコード99および100の有効期限が切れている場合、OpenMetricsルートにアクセスできませんでした (MUL-26647)

- > ネットワークまたはインフラストラクチャの設定ミスが発生した場合に、ディスク切断エラーメッセージが誤って表示されることを防ぐための保護機能が追加されました (MUL-26929)。
- サーバーがPTPロック状態を失うことがある (MUL-27020、XHUBVIA-604)
- > ABRoll では、AsRunLog ファイルに記載されているクリップ参照が間違っている可能性があります (MUL-26772)



1935年6月20日

- TGE2ボードを搭載したサーバーでは、LACPリンクアグリゲーションはサポートされていませんでした (MUL-26922)。
- > ST 2022-6 (100G IP Enabler搭載)において、プレイアウト信号の象限が誤って割り当てられていた (MUL-26869)。
- フレームベースのコーデック (AVC-I, XAVC)でEditRecを使用した場合、ビデオ入力信号は記録されませんでした。 (MUL-26808)
- > ABRollでは、メインとバックアップの再生が同期しない場合がある (MUL-26862) Xploreでは、一定時間動作させた後、レコーダのモニタリングが同期しない場合がある (MUL-26228)
- > TGE2ボードを搭載したXTサーバーは、一部のIntel SFP (MUL-26858)と互換性がありませんでした。
- > 無効なLTC信号によって引き起こされるマルチカムによる信号セグメンテーション障害を防止するための保護機能が追加されました (MUL-26951)。
- ネットワーク上の別のサーバーのH4Xボードが突然再起動した場合、ローカル録画が停止することがあります (MUL-26483)。
- > XHub-VIAポートではバッファリングプロファイルが適切に管理されておらず、帯域幅制限に近づく画像が破損することがありました (WHITE-306)。

2020年6月27日

- > ST 2022-6において、XAVC/AVC-Iを使用した場合、再生時の画像品質が劣化する可能性がある (MUL-26804)。
- > XAVC 300および480iにおいて、Matroxインジェストボードから復元されたクリップの再生が破損する可能性がある (MUL-26728)。
- NMOS IS-04では、すべてのリソースが2分ごとにレジストリ上で自動的に削除および追加されました。 (MUL-26811)
- > NMOS IS-04では、オーディオソースチャンネルリストが空でした (MUL-26171)
- > Live IPにおいて、XHub-VIA 100G Enablerを使用した場合、マルチカム起動後512回以上の更新後に受信機の更新が失敗する可能性がある (MUL-26774)。
- クリップ再生時に、TCユーザービットが出力信号に埋め込まれていなかった (MUL-26701)
- > Multisetupによる編集集中に発生する信号セグメンテーション違反を防止するための保護機能が追加されました。設定行 (MUL-26839)

2020年6月25日

- > LSM-VIA は、IPDirector からプレイリストの一括更新を実行する際に切断される可能性がある (MUL-26716)
- 最新バージョンの Multicam (20.5.37 以降) との互換性の問題により、XT プロキシが Multireviewソフトウェア (MUL-26690)に表示されている
- 外部アレイを使用している場合、ディスク17~24の番号が正しく割り当てられておらず、ドライブが切断されたときにShift+F5画面に不整合が生じる問題がありました (MUL-26551)。
- > Variscite モジュール (rev. A3) は失われる可能性がある (MUL-26592, XHUBVIA-593)
- > Spotboxでは、GPIを使用してXTサーバー上で再生コマンドをトリガーすることができませんでした (MUL-26602)。
- > IPD-VIA Browseでは、ブラウジングセッションを開始できませんでした (MUL-26334)
- > XT-GOのUHD-4Kにおいて、マルチビュー出力のチャンネル割り当てが誤っていました (MUL-26681)
- > PTPをタイムコードソースとして使用する場合、PTPの場合に信号浮動小数点例外が発生する可能性があります。不安定性 (MUL-26504)
- > IPDirectorでクリップを読み込む際に発生する稀なサーバークラッシュを防ぐための保護機能が追加されました (MUL-26558)。
- > プレイリスト要素をプリロードする際にまれに発生するサーバークラッシュを防ぐための保護機能が追加されました。PRVチャンネル (MUL-26558)
- クリアビデオディスク (MUL-24419)
- > オプションコード97を削除すると、入力と入力機能が使用できなくなる可能性があります (MUL-26684)。
- > Live IPでは、旧バージョンのMulticam (MUL-26747)からアップグレードする際に、XHub-VIA 100G Enablerファームウェアがインストールできない場合がありました。



- > ABRoll では、別のプレイリスト要素をキューイングすると、ステータスが再生中からキューイング済み (MUL-26678)
- > XHub-VIAを手動で変更する際に、出力信号の品質が低下するのを防ぐための保護機能が追加されました。100GイーネーブラーVLAN構成 (MUL-26331)

2021年6月20日

プロキシストリーミングインターフェースのデフォルトIPアドレスを変更するには、Multicamの再起動が必要でした。(MUL-25489)

LSM-VIAでは、スプリットミックス機能を使用するとOSDが表示されませんでした (MUL-25338)。

LSM-VIA PGM+PRVからマルチPGMに切り替えた際に、2番目のPGMが正しく表示されませんでした。OSD (MUL-25309)について

ログ抽出時にTGE2ボード関連のログが欠落していました (MUL-26304)

ギガビットデバッグ画面 (8xx)を操作している際にUcode例外が発生する場合があります (MUL-25944)

TGEボードが検出されない場合に起動時に表示されるエラーメッセージが正しくありませんでした (MUL-26116)。

- > Live IPにおいて、NMOS IS-04の時刻基準がTAIではなくUTCであった (MUL-24821)。
- > Live IP 環境では、ログ抽出を実行すると XHub-VIA 100G Enabler が動作を停止する可能性がある (MUL-26215、 XHUBVIA-586)
- > Live IPでは、最初のレコーダーが非アクティブ化されている同じモジュールで、2番目のレコーダーのルートを変更すると、最初のレコーダーが再びアクティブ化される可能性があります (MUL-25511)。
- > Live IPにおいて、送信元IPアドレスフィルタリングが有効な場合、ソースフィルタ行を含まないSDPファイルを送信しても、現在のフィルタが削除されないという問題がありました (MUL-26003)。
- > Live IPにおいて、XHub-VIA 100G Enablerを使用せず、ST 2022-7を1080p、59.94Hzでアクティブにした場合、Make-Before-Breakが誤って使用されました (MUL-23874)。
- > NMOSユニキャストをマルチカムWeb設定から有効化できませんでした (MUL-17717)

NMOS IS-04では、マルチビューアソースのフォーマットタイプは追加または削除時に更新されませんでした。

音声モニタリング (MUL-24682)

ります。 NMOS IS-04では、HS873を搭載したサーバーで、 NMOSを有効にすると、一部のAMWAテストが失敗する可能性がありますデュアルPC LANモードにおけるユニキャストDNSレジストリ (MUL-25259)

- > 1080iのAVC-Iでは、録画トレインが録画を停止することがありました (MUL-26210)

XNetネットワーク構築時のデータベース交換の堅牢性が向上しました。

(MUL-25331)

- > R4Xボード (MUL-26310)との接続が失われる可能性のある競合状態を回避するための保護機能が追加されました。
- > 同じ XNet ネットワーク内の別のサーバーで多数のクリップ操作とサーバー上でのプレイリスト操作を組み合わせる際に、MainBgTask によって発生するセグメンテーション違反エラーを回避するための保護機能が追加されました (MUL-26255)。
- > VDCPログに特殊文字が書き込まれた際にDspUartによって発生する「信号中止」エラーを回避するための保護機能が追加されました (MUL-24406)。

- > ALT+Fを使用してファイルシステムから COD ライセンスファイルをアップロードすると失敗する可能性があります (MUL-26314)

インポート後に、以前は無効だった Multicam 設定行を開始した際に CfgWeb にアクセスできなくなりました

ライセンスファイル (MUL-26305)

ライセンスをインポートした際、Multicamを起動した後にのみオプションコードメニューに表示されました (MUL-25914)。

- > XT-GOでは、オプションコード84 (プレイリストの詳細オーディオ)がデフォルトで有効になくなりました (MUL-25912)

- > Epsio Paint 1.3は、バージョン20.2以降、Multicamとの互換性がなくなりました (MUL-24671)。

XFile3では、異なる録音セッションのクリップを含むプレイリストをフラット化またはアーカイブすると失敗する可能性があります。

(MUL-23047)

1937年5月20日

- > Live IPにおいて、ST 2110ストリームで拡張ヘッダーが有効になっている場合、デコードの問題が発生する可能性がある。(MUL-25667)

ST 2110-40では、1080iにおいて、フィールド中に補助パケットがない場合、データ破損が発生する可能性がある。

空のパケットが正しくデコードされなかったためです (MUL-25288)

ST 2110では、一部のPTPシステムフレームレートがMulticamでサポートされていませんでした (MUL-25947)。

- > NMOS IS-04を使用すると、MulticamはCerebrum (MUL-25577)から定期的に切断および再接続することができました。

- > IPDirectorを並列モードで使用情况、GP経由で送信された再生コマンドが実際には2回送信されていました。

(MUL-25878)



- > IPDirectorを並列モードで使用する場合、GPI経由でSLSMクリップを含むプレイリストを最初にトリガーすると位置とデフォルトの速度として「不明」が設定されていたため、プレイリストがフルスピードで再生されました (MUL-25894)。
 - > XFile3で複数のクリップをコピーまたは復元した際に、進行状況のパーセンテージが最初のクリップのみ更新される問題 (MUL-25805)
 - > GPI を介して再生がトリガーされた場合、ショート インとショート アウトの間でループ クリップが再生されませんでした (MUL-25507)
 - > XNet-VIA (MUL-25867, MUL-25886, MUL-25895)
 - > Linx / AVSP ログに特殊文字が書き込まれた際に DspUart によって発生するセグメンテーション違反エラーを回避するための保護機能が追加されました (MUL-25847)。
 - > LSM-VIAリモート接続の切断を回避するための保護機能が追加されました (MUL-25865)。
- ESM-VIAでは、IPDirectorがクリップVarIDを更新している場合、クリップの作成が失敗することがある (MUL-25798)。
- マルチカムメッセージがOSDに表示されることがありますが、LSMから確認応答ができません。
- VIA (MUL-24854)
- ライセンスをインポートした際、Multicamを起動した後にのみオプションコードメニューに表示されました (MUL-25914)。
- > XHub-VIA 100G EnablerとNATが有効になっている場合、PTPメッセージ間のタイムアウト管理が不適切なため、PTPの繰り返し損失が発生する可能性があります (MUL-26276, XHUBVIA-581)。
- ESM-VIAでは、クリップメタデータの更新を短時間で2回連続して実行すると、更新が失敗することがある (MUL-26606)。

2020年5月25日

- > 10K9ドライバは、約2年6ヶ月経過すると取り外され、接続が切断される可能性があります。
稼働時間 (POH) (MUL-24913)
 - > フレームベースのコーデック (AVC-I, XAVC)を使用した1080i環境で、フレームベースのプリロードを使用してXNet-VIA経由で過去のコンテンツを遡って閲覧する際に、まれに3秒間フリーズが発生する場合があります (MUL-25283)。
- フレームベースのコーデック (AVC-I, XAVC)を使用した1080iにおいて、フレームベースのプリロードを使用したXNet-VIA経由で、遠距離クリップの終了点から後退する際に、プレーヤーがフリーズする可能性がある (MUL-25404)
- > フレームベースのコーデック (AVC-I, XAVC)を使用した1080iにおいて、「タイムコードへ移動」コマンドによって返されるタイムコードが1フィールドずれていた (MUL-25357)。
 - > Remote では、Remote 2 でプレイリストを読み込む際に、PostRoll 設定の変更が反映されませんでした。
リモート3および4 (MUL-25238)で考慮されています
 - > リモートでクリップを再トリミングしてクリップの末尾にジャンプすると、古いクリップが境界線が使用されました (MUL-24890)
- ESM-VIAでは、効果の持続時間を変更すると、プレイリストの遷移ポイントが保持されませんでした (MUL-23746)。
- > LSM-VIAでは、単一要素のプレイリストをループ再生する機能が動作しませんでした (MUL-21409)
- ESM-VIAでは、プレイリストを再生している際に、再生チャンネルが時折E/Eに戻ることがありました (MUL-24344)。
- ESM-VIAでは、Unicode文字を含むクリップをコピーした際に、マルチビューアにクリップ名が表示されませんでした (MUL-19240)。
- ESM-VIAでは、プレイリストの編集集中に再生チャンネルが時折E/E状態になることがありました (MUL-25273)。
- > LSM-VIAを使用してクリップを呼び出す際にMainBgTaskによって発生するSignal Abortedイベントを防止するための安定性向上策が追加されました (MUL-24642)。
 - > Live IPでは、1080iの場合、第2フィールドに送信する補助パケットがない場合、パケットは送信されませんでした、ST 2110-40規格では空のパケットを送信することが要求されています (MUL-24904)。
 - > Live IPにおいて、サブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイIPアドレスの自動インクリメント機能が正しく動作していませんでした (MUL-23033)。
- ST 2022-7では、ライブIP構成において、セカンダリオーディオストリームが表示されない場合があります。
設定不良のオーディオストリームで欠落している (MUL-22650)
- > Live IPでは、PTP GMクロックIDはリトルエンディアン形式で表現されていました (Multicam 20.2まではビッグエンディアン形式でした) (MUL-22219)。
- PTP補正フィールドを介して伝達されるPTP透過クロックの滞留時間が、XT内部で誤って適用される可能性がある (MUL-25202)
- XHub-VIA 100G EnablerとNATが有効になっている場合、WebConfigでINTEROP_AES_SMPTEプロファイルに準拠していないPTPプロファイルが定義されていると、PTPステータスが「不良」と表示されました (XHUBVIA-562, MUL-24978)。



競合状態のため、スイッチが XHub-VIA でバージョン変更中にエラーが発生する可能性があります。

設定がリセットされました (MUL-25251, XHUBVIA-564)

- > Ember+BESSでは、入力ストリームが存在しない場合、要求どおり「障害あり」とは表示されませんでした。
規格 (MUL-17062)
- > NMOS IS-04を使用した1080iにおいて、送信側SDPにおける寸法表示が誤っていた (MUL-18784)。
NMOS IS-04では、デュアルPC-LAN環境で動作させた場合、DNS-SDを介したRD検出が機能しませんでした。
(MUL-25260)
- > NMOS IS-04では、1080i構成 (MUL-24800)において、流量グレイネイトが誤っている可能性があります。
- > NMOS IS-05では、最終的にMulticamによってアップデートが拒否されたにもかかわらず、エンドポイントのアクティブ化または非アクティブ化が受け入れられました (MUL-21197)
- > 1つ以上の設定行が間違っている場合、Web 設定からサーバーにアクセスできなくなる可能性があります。
サーバー帯域幅の制限を超過したため無効です (MUL-25275)
- > プレイリストにおいて、AVSPを使用してクリップのオーディオレベルを調整すると、同じプレイリスト内の2つ後のクリップにノイズが発生する場合があります (MUL-24941)。
- > MulticamのWeb設定において、プロトコルがGPIセクションに表示されませんでした (MUL-22364)。
- > SNMP MIBにMV4X SFPのMACアドレスが欠落していました (MUL-25036)
- > IPDソフトウェアプレーヤーは、Shift+F5モニタリング画面から実行されたレコードトレインリセット操作後に、レコードトレインを再生できませんでした (MUL-24945)。
- > Phantom Flex 4Kハイパーモーションカメラでは、同時にロードされたブロックをクリアする際に不具合が発生する場合があります (MUL-21248)
- > IPD-VIAでは、XTサーバーとの接続が時折切断されることがありました (MUL-24763)。
- > ドロップフレームを使用した59.94Hz構成でDD35プロトコルを使用してクリップを作成する際に、DspUartによって発生する信号中断イベントを防止するための安定性改善が追加されました (MUL-23785)。
- > Multicamのメンテナンスメニューで、PC-LANネットワーク設定のラベルが表示されない (MUL-24250)
- > ヌルシーケンスへのジャンプ時にマイクロコード例外が発生しないように、安定性の向上策が追加されました (MUL-25394)。

1937年4月20日

XNet-GO経由で遠隔地のクリップを再生する際に、 が発生する場合があります (MUL-25134)。

- > XTAccessで以前に復元した遠隔クリップを再生する際、クリップの最後まで到達すると、スクラップバック時にフリーズが発生する場合があります (MUL-25049)。
- > Multicam 20.4を新規インストールした後、XTサーバーがNMOSリソースを一切アドバタイズしなかった (MUL-24942)。
- > Live IPIにおいて、マルチストリーム構成 (SLSM, Quad-HD)を使用している場合、SFPのリセットが機能しなかった (MUL-24099)。
- > XHub-VIAでは、CLIを使用してVLANからインターフェースを削除することはできませんでした (XHUBVIA-558)。
- > XNet-VIA を介した遠隔地でのブラウジングが時々失敗することがある (MUL-25088)
- > PGM/PRVのLSM-VIAでは、ロール後のクリップが再生されない場合があります (MUL-24584)
- > Multicam 20.4.34 のインストール時に、XHub-VIA 100G Enabler のファームウェアアップグレードが失敗する可能性があります (XHUBVIA-563, MUL-25236)。
- > Ember+BESSでは、2台以上の受信機を同時に更新すると、場合によっては失敗することがあります (MUL-24931)

1934年4月20日

- > プロキシエンコーディングの安定性が向上し、システムエラーの一部の発生を防ぐようになりました。
バックアップ遅延の問題 (MUL-24696)
- MV4XインターフェースへのDHCPによるIPアドレスの割り当てが正しく機能しませんでした (MUL-24796)
- > XNet-VIA では、以前にネットワーク経由でそのサーバーからクリップを読み込もうとした際に、同時にそのクリップが削除された場合、遠隔サーバー上のコンテンツへのアクセスが失敗することがあります (MUL-24790)。
- > では、PGM3またはPGM4にクリップをプリロードすることはできませんでした (MUL-24694)。
- AVSPでオーディオレベルを調整する際、出力ゲインの増加が18dBではなく3dBに制限されました。
予想通り (MUL-24782)
- LSM-VIAでは、ループモードが有効になっている場合でも、クリップが一度しか再生されない場合があります (MUL-24755)。



XNet-VIA でフレームベースのプリロードを使用して遠隔クリップを再生すると、フリーズが発生する場合があります。

(MUL-24761)

- > NMOSの不安定性につながる可能性のある競合状態を回避するための保護機能が追加されました (MUL-24792)。
- > LSM-VIAでは、遠隔の補助トラックを含むプレイリストの再生が正しく機能しませんでした (MUL-24705、MUL-24711)
- > では、まれに再生チャンネルで誤ったクリップがキューイングされることがありました (MUL-24614) 。 IS-05では、エンドポイントをアクティベーションせずにステージングすると、アップデートが即座に適用されました。(MUL-24620)
- > Mulboot中にXHub-VIA 100G Enablerの設定を実行する際に例外が発生しないよう、安定性の向上策が追加されました (XHUBVIA-553) 。
- > CLI を使用して XHub-VIA 上に LAG インターフェイスを作成すると失敗する可能性があります (XHUBVIA-557)

20.4.31

- > Live IPでは、マルチフェーズストリーム (SLSMおよびUHD-4K)を有効化または無効化することはできませんでした。Web Config を介して分割または 2 サンプルインターリーブ (MUL-24143)

LSM-VIA リモコンは、TSL を介してレコーダーの名前を変更する際に XT サーバーから切断される可能性があります。

米国ASCII範囲外の文字 (MUL-24541)

- > XNet-VIA経由で音声のないクリップを再生する際にマイクロコード例外が発生しないよう、安定性の向上を図りました (MUL-24534) 。
- > VLAN切り替え時に異なるXNet-VIAネットワークへの接続/切断を行う際にマイクロコード例外が発生しないよう、安定性の向上策が追加されました (MUL-24254) 。
- > ローカルの録音トレインは、XNet-VIA経由でコピー中のクリップを再生中に利用可能な帯域幅が飽和状態になると、録音を停止する可能性がある (MUL-24289) 。
- > サーバーが時折切断されるのを防ぐため、安定性の改善が行われました。XNet-VIAネットワーク (MUL-24448)

XNet-VIAでは、XTサーバーが有効なLTCを受信しなかった場合、ランダムな日付ジャンプが時折発生する可能性があります。

信号 (MUL-24323)

今後、日付が変更された場合、レコーダーのサムネイルが更新されない問題が発生する (MUL-24542)

- > 多数のマイクロコードログを生成する際にMulticamによって発生する信号セグメンテーション障害を防止するため、安定性の向上策が追加されました (MUL-24543) 。
- > ItRTPrclによって発生する信号セグメンテーション障害を防止するために、安定性の改善が追加されました。(MUL-24218)

LSM-VIAでは、接続と切断によって引き起こされるメモリリークが原因でクリップの作成が失敗する可能性があります。

XNetのサーバー (MUL-24290)

- > -VIAでは、再生リストIDがChar OUT OSDに表示されませんでした (MUL-24555) 。
- > LSM-VIAで、遠隔クリップをAUXトラックとして定義すると、LSM-VIAリモートがフリーズする問題が発生しました (MUL-24674) 。

NMOS IS-04では、マルチビューアーの音声を変更する際に、送信者リストが誤って表示される場合があります。

監視設定 (MUL-24426)

- > NMOS IS-04では、Sony RDI (MUL-24069)を使用した場合、一部のAMWAテストが失敗する可能性があります。
- > NMOS IS-04では、Multicamの起動直後にSFPインターフェースを接続/切断した際に、送信機または受信機がノードに表示されない場合があります (MUL-24235) 。
- > NMOS IS-04では、送信側SDPiにおいてPTP GMクロックIDが小文字で書き込まれていました (MUL-18783) 。
- > NMOS IS-04では、PTP GMクロックIDはリトルエンディアン形式で表現されていました (MUL-24699) 。
- > NMOS IS-04では、ビデオ専用ソースがフォーマットタイプmux (MUL-22867)のソースとして公開されました。
- > NMOS IS-05では、受信機の更新が適用されるまでに数秒かかる場合があります (MUL-24668)
- > Ember+BESSを使用している場合、ST 2022-7を使用している際に、両方のストリームが利用可能であっても、受信機の状態が「プライマリ」と表示されることがありました (MUL-22953) 。
- > Ember+ BESSを使用している場合、ST 2022-7を使用すると、プライマリまたはセカンダリ ストリームが利用可能であっても、マルチビューア入力レーサーの状態が「喪失」と表示されることがありました (MUL-22954)。
- > + BESSでは、受信機に保存されたSDP情報が、構成変更 (MUL-23219)
- > + BESSでは、SDPファイルのフォーマット値がUHD-4Kであるにもかかわらず、出力がフルHD (MUL-24571)
- > + BESSでは、受信機の状態はストリームが存在する場合は「true」、ストリームが損なわれている場合は「false」と表示できます。無効化された受信機用 (MUL-21423)



- > ABRollでは、ギガビット経由で多数の遠隔クリップをローカルサーバーにコピーする際に、コピーが時折失敗することがあります (MUL-22241)。

XSquare製のガードバンド付きクリップのバックアップが失敗する場合がある (MUL-24505)

- > XHub-VIAにおいて、SNMP経由で公開されるローカルおよびリモートデバイス情報が誤っていました (XHUBVIA-513)
- > XHub-VIAにおいて、SNMP経由で公開されるPRSプライマリインターフェース名が誤っていた (XHUBVIA-549)
- > XHub-VIAにおいて、デバイスの切断時にLLDPネイバリストが更新されない問題 (XHUBVIA-527)
- > -VIAでは、XHub-VIAの一部のインターフェースで保護スイッチングを有効にすると、リンクステータスが「WaitForEnableAutomaticSwitching」のままになり、PRSが正常に動作しなくなることがありました。 (XHUBVIA-492)
- > XHub-VIAでは、XNet-VIAアップリンクをLAGモードで構成することができませんでした (XHUBVIA-524)。

2020年4月27日

- > LSM-VIAを使用してクリップをあるXTサーバーから別のXTサーバーに移動する際に、MainBgTaskによって発生するSignal Abortedイベントを防止するための安定性向上策が追加されました (MUL-23785)。
- ESMリモートでは、SLSM設定ページがテクニカルセットアップの正しい場所ではありませんでした。 (MUL-22610)
- > LSM-VIAでは、クリップ作成中にクリップが移動されていた場合、クリップの移動が失敗する可能性があります (MUL-18832)。
- ESM-VIAを使用している XNet(Web)Monitorでポートの状態が「切断済み」と表示されました (MUL-23876)。
- ESM-VIAでは、クリップ上の最後のマークポイントのロードが失敗する場合がある (MUL-23572)
- > リモートの場合、クリップShortOUTに到達してからレバーを一番下に移動すると、追加のフィールドが使用されました (MUL-22947)
- > 50Hzの場合、音声は映像に対して1フレーム遅れる可能性がある (MUL-24174)。
- ESM Remoteを使用すると、同じプレイリストを閲覧した後にオーディオが分割されたプレイリストを再生すると、オーディオ進角/遅延が正しく適用されませんでした (MUL-23067)
- > Live IPとSLSM構成において、補助トラックを含むプレイリストを読み込む際に、LSMリモートが一時的に遅延する可能性がある (MUL-24020)。
- > NMOS IS-04では、Multicamを終了した後もリソースが露出したままだった (MUL-24071)
- > PGMからの音声を監視する際に、2番目、3番目、4番目のMV4X出力の音声送信元がNMOSノードで宣言されていませんでした (MUL-22871)

XNet-VIA を介して遠隔地のプレイリストをローカルにコピーすると、ローカルのクリップが置き換えられることがあります。

地元発の (ただしー風変わった)クリップによるプレイリスト (MUL-23875)

- > AVC-I / XAVCコーデックを使用したライブIPでは、音声と映像が1フレームずれる可能性がある (MUL-23808)
- > IPD-VIAでは、レコーダー11と12のレコーダーサムネールが表示されない場合があります (MUL-24112)。
- ESM-VIAでは、GP経由でプレイリストを再生する際に、補助トラックが再生されない場合があります (MUL-24083)。
- > XHub-VIA 100G Enablerの接続切断を回避するために、安定性の向上策が追加されました。 (XHUBVIA-504)
- > VDCPでは、ループモードを停止しても、次にキューイングされたクリップが再生されました (MUL-20366)

2020年3月27日

NMOS IS-04では、プライマリRDIへの接続が失われた場合、ノードはセカンダリRDIに登録されませんでした。 RDI (MUL-23574)

- > MainBgTaskによって発生する信号分割エラーを防ぐための安定性向上策が追加されました。 (MUL-23721)
- > ジェンロックの乱れ後、h.264 Iフレームが誤ってPフレームとしてタグ付けされ、IPDirectorがプロキシストリームをデコードできなくなる可能性がある (MUL-23118)
- > では、プレイリストアイテムがアイドルモードになると、プリロードが失敗し、アイテムが再生されないことがありました。再生済み (MUL-23352)

2020年3月26日

- > UHDでAVC-I / XAVCコーデックを使用した場合、再生時に色再現の問題が発生する可能性があります (MUL-23238)
- ESM-VIAで全てのクリップとプレイリストをクリアした際、プレイリスト内のクリップは削除されませんでした。 (MUL-23066)
- ProResコーデックを使用した1080iおよび1080pにおいて、エンコード品質の問題が発生する可能性があります (MUL-23447)。



- > Live IP with ST 2022-7において、NMOSを使用してオーディオレシーバーを変更すると、別のオーディオレシーバーのセカンダリストリームがアクティブになり、プライマリストリームは無効のままになる可能性がある (MUL-23086)。
- 場合によっては、IPDirector で拡大したクリップを再トリミングまたは削除できないことがあります (MUL-22633)
- > VDCP では、VarID を使用してクリップ データベース情報を取得する際に失敗する (MUL-23223) 以前に XAVC から DNxHR にトランスコードされた復元済み UHD コンテンツを再生する際に、デコードの問題が発生する可能性がある (MUL-23188)
- > XNet-VIA を使用したリモートコンテンツの読み取り時に、優先順位が誤っている場合があった (MUL-23525)
- > MainBgTaskによって生成されるSignal Abortedイベントを防止するための安定性向上策が追加されました。 (MUL-23563)

2021年3月20日

- > LSM-VIAを使用した分割画面モードでは、PGMのChar OUTモニタリングのOSDが更新されませんでした。 (MUL-22075)
- > ST 2022-7において、XHub-VIA 100G Enablerを使用した場合、MV4Xの最初の外部入力の見視状態は常に2番目の外部入力の監視状態と同じでした (XHUBVIA-364)。
- > 31台を超えるマシンで構成されるネットワークにおいて、ネットワーク番号が31を超えるサーバーで自動ローカル化が失敗する (MUL-22996)

XHub-VIA 100G Enablerで新しいルートプログラミングするのに時間がかかりすぎて、すべてのルートが再プログラミングされる場合がある (MUL-22891)。

重複したプレイリストGUIDが原因で、LSM-VIAリモコンがXTサーバーから切断される可能性がある (MUL-22316)

- > ST 2022-7を無効化したLive IP環境では、マスターモジュールの2番目のインターフェースをケーブル接続した際に、サーバーがPTPにロックされない場合があります (MUL-23152)。

1936年2月20日

ハードウェアクロックの読み取りの不安定性により、予期せぬ日付ジャンプが発生する場合があります。 (MUL-22305)

- > FTP経由で接続した際に、サーバーのVarIdフォルダにクリップが表示されなくなりました (MUL-22321)
- > 録音者の名前に含まれる特殊文字 (二重引用符など)が、Web 引き起こすことがあります
設定がハングアップする (MUL-22421)

1934年2月20日

- > XtdenDD35プロトコルを使用している際にクリップの名前を変更すると問題が発生する可能性があります (MUL-22109)
- > Multicamを起動した際、「Genlock OK開始日」に無効な日付が記録される (MUL-22308)
- プライマリLSMでタイムラインがキューイングされると、セカンダリLSMでプレイリストをロードできませんでした。
LSMリモコン (MUL-22157)
- クリップが内部プロキシ作成レベルで停止し、IPD によってチャンネルにロードされなくなる場合があります (MUL-22255)

XNet 確立中のクロック更新は、使用時にルート管理の問題を引き起こす可能性があります
NMOS (MUL-22152)

- > Live IPにおいて、TSLプロトコルを介してチャンネル名を更新する際にフリーズが発生する可能性がある (MUL-19707)
- > 非常に不安定な PTP 信号を受信すると、記録トレインが停止する可能性がある (MUL-22175) TSL をタリール プロトコルとして
使用している場合にレコーダーの名前を変更すると、マルチビューワーにのみ影響がある (MUL-22475)

IN 20.2.32

- > SDIでh.264プロキシが有効な場合、LoResコーデックが破損し、IPDソフトウェアプレーヤーで読み取れない可能性があります (MUL-22130)。

XHub-VIA Live IP Aggregatorでは、1080pでは2台のPGMとその監視を同時に行うことはできませんでした。
同じネットワークインターフェースに割り当てられています (MUL-22113)

- > XHub-VIA Live IP 100G Enabler を使用すると、一部のレコーダーは入力ソース (MUL-22186)
- > Sony BVW75によって制御されるチャンネルでGPIをセカンダリプロトコルとして定義する場合、GPI信号は
他のサーバーチャンネルに送信することも可能です (MUL-22140)。



LSM Remoteでは、ネットワーク番号32以上の別のサーバーに接続することはできませんでした。
(MUL-21999)

VGA画面では、ネットワーク番号32以上の別のサーバーに接続できませんでした。
(MUL-22163)

- > MulSetupにおいて、XiP設定行間のナビゲーションが非常に遅くなる場合がある (MUL-22197)。

20.2.30

- > NMOS IS-05 で ST 2022-7 を使用している場合、重複する transport_params のないペイロードが拒否されませんでした (MUL-18276) NMOS IS-04 で Live IP 構成で ST 2022-7 をアクティブ化または非アクティブ化した場合、NMOS ノードでステータスが更新されませんでした (MUL-17038)

- > IPDirectorにおいて、サブクリップを作成したり、プレイリスト内のクリップを再トリミングしたりする際に、クリップが誤ったタイムコードで再キューされる可能性がある (MUL-20505)。
- > Phantom Flex 4K ハイパーモーション カメラでは、現在ブロックがクリアされているときにグリッチが発生する可能性があります。
ロード済み (MUL-21248)

LSM-VIAで音声ミュートされたプレイリストを再生した際に、音声再生が再開されない問題 (MUL-19432)

- > Live IPでは、マルチビューア入力はユニキャストではサポートされていませんでした (MUL-21017)
- > ST 2022-7では、Live IPレシーバーにinterface_id/パラメータが存在しませんでした (MUL-19363)。
- > NMOS IS-04では、使用されていないインターフェースでも/selfにリストされる可能性がありました (MUL-19156)
- > の場合、破損したメッセージを受信した際に、XTサーバーはNACKメッセージで応答しませんでした。
(MUL-17726)
- > Live IPでは、ビデオストリームとオーディオストリームの間で同期遅延が発生する可能性がある (MUL-19229)。

Web Config では、ライブ IP インターフェイス「D」の IP アドレスの自動インクリメントが機能しませんでした。
(MUL-18704)

- > NMOS IS-04では、受信機のsender_idが間違っており、更新できませんでした (MUL-21989)
- > 1080iでフレームベースのコーデック (AVC-I,XAVC)を使用した場合、3G上のSLSMレコーダーはマルチカム開始時に停止することができました
(MUL-21489)。
- > 1080pでは、LSM-VIAで作成されたクリップを含むプレイリストをフラット化する際に、ビデオの不具合が発生する場合があります。
(MUL-21891)

1939年1月20日

XTサーバーは、数日間稼働した後、XNet-VIAネットワークから切断される可能性があります。
(MUL-21147)

LSM-VIAでは、マルチカムが数日間実行されている場合、クリップをプレイリストに追加できない場合があります
日数 (MUL-20966)

- > Multicamを数日間稼働させた場合、LSM-VIAが応答しなくなる可能性がある (MUL-20925)

LSM-VIA を すると、IN と のクリップを作成することで Hammer サービス DB の再同期をトリガーできます。
OUTは同じTC (MUL-20580)で定義されています。

- > ABRollにおいて、ループ再生中のプレイリスト内でクリップのリストをドラッグ&ドロップすると、一部のクリップがプレイリストから削除される可能性がある (MUL-21208)。

LSM-VIA (MUL-21303) によって再ストライピングされたクリップが含まれている場合、プレイリストをフラット化することはできません。

- > VDCPでは、RecordInitコマンドが誤ったTC IN値を設定していました (MUL-21177)
- > -VIA では、IPDirector で制御される PGM にプレイリストをロードすると、時々遷移が発生します。
エフェクトは再生されませんでした (MUL-20752)

1937年1月20日

- > サーバー障害発生時に通知が失われ、XNet-VIAネットワークの復旧に問題が生じるのを防ぐための対策が追加されました。(MUL-20508)

大規模なセットアップでの LSM-VIA パフォーマンスの問題を回避するための最適化が含まれています (MUL-20786、
MUL-20571)

- > プロトコルによって制御される遠距離記録列車の場合、プレーヤーの状態が正しくありませんでした (MUL-15258)。
- > 同じ XT で 4 人のオペレーターが LSM-VIA を使用する場合、プレイリストへのクリップの挿入が時々
失敗 (MUL-20986)



- > IPD-VIAコントローラがアクティブな状態でMulticamを起動すると、サーバーがXNetネットワークに統合されない場合がある (MUL-19481)
- > LSM-VIAでは、クリップの作成が非常に遅くなる場合があります (MUL-21021)
記録装置のサムネイルは、数分後にIPD-VIAでのみ利用可能になりました (MUL-18446)
マルチカムメッセージがOSDに表示されることがありますが、LSMから確認応答ができません。
VIA (MUL-20876)

IN 20.1.32

- > ST 2022-7において、Ember+を使用してオーディオレシーバーを再プログラムした後も、ストリームプレゼンスの状態が引き続き「Lost」と表示される (MUL-20512)。
- > XHub-VIA上のLLDPから返された情報では、シャーンIDは16進数で表されていた。
(XHUBVIA-306,MUL-20629)
- > ST 2022-7では、MV4X出力の二次フローの特性において、送信元ポートと宛先ポートが入れ替わっていました (MUL-20551)。
- > フレームベースのコーデック (AVC-I,XAVC)を使用した1080iでは、タイムスタンプが前後することがあり、ライブ再生やレコードトレインの先頭の読み取りが妨げられることがありました (MUL-20616)。
Shift + F5 の監視画面に MV4X Live IP インターフェイスの帯域幅監視が表示されません (MUL-19561)
プレイリストの要素を素早く削除する際に、誤って別の要素が削除されることがあります (MUL-19333)
ドロップフレームクリップを再トリミングすると、非ドロップフレーム (MUL-20196)としてフラグが立てられる場合があります。

20.1.31

- > TSL を介したカメラ ラベルの名前変更は、初期ラベルが空の場合機能しませんでした (MUL-20459)
- > Live IPでは、マルチビュー出力はユニキャストではサポートされていませんでした (MUL-20402)。
- > NMOS IS-05では、短時間に複数回の大量アップデートを実行すると、一部の受信機が一時的に元のソースに戻ってしまうことがありました (MUL-20257)。
XSquareでタイムラインをフラット化する際に、レンダリングされたクリップの末尾が途切れることがある (MUL-20606)
- > -VIAでは、同じサーバー上で4人のオペレーターが作業する場合、ミックストランジション効果は無視されました。
(MUL-20509)
- > Phantom Flex 4Kハイパーモーションカメラでは、100%速度でのフレームレートが間違っていました (MUL-16254)
ライブIPインターフェイスのIPアドレスが正しくインクリメントされませんでした (MUL-18916)

20.1.29

- > レコーダーを使用しない構成で使用情况の場合、タリが正常に動作しない問題が発生しました (MUL-20339)。
- > ニアラインからのプレイリスト復元が時々遅くなる (MUL-20266)
- > 遠隔サーバーからローカルにコピーされたクリップを再生すると、再生に失敗する場合がある (MUL-20246)。
- > Live IPでXHub-VIA IPアグリゲーターを使用している場合、Multicam (MUL-20130)の起動時にシステムの日時が同期されない問題が発生しました。
- > M4Xを搭載したサーバーでは、LTCに基づくTCが10秒遅延する可能性がある (MUL-20346)
- > NMOS IS-04 では、Live IP 構成で送信機または受信機をアクティブ化または非アクティブ化すると、NMOSノードでステータスが更新されませんでした (MUL-17039)
- > PGM/PRVで設定を実行すると、マルチビューの音声モニタリングが正しく機能しない場合があります (MUL-20304)
- > LSM-VIAでオーディオ分割機能を使用した場合、トランジションが中央に配置されず、挿入されたクリップのショートINが変更されるという不具合がありました (MUL-20264)。
- > LSM-VIAでは、ライブモードに戻った際にFilmFXモードが無効にならなかった (MUL-20268)
- > NMOS IS-05では、transport_paramsが指定されていない場合、受信機をアクティブ化できませんでした。
(MUL-14915)

20.1.27

- > Live IPにおいて、AES67 RTPパケットに正しいDSCPタグが付与されていませんでした (MUL-15950)。
- > Live IPにおいて、PTPパケットに正しいDSCPタグが付与されていませんでした (MUL-15950)。
- > Live IPでXHub-VIA IPアグリゲーターを使用している場合、ST 2022-6またはST 2022-8で作業しているときにST 2022-7がアクティブ化される可能性があります (MUL-19553)。



- > XHub-VIA Live IP Aggregator を使用する場合、同じ SFP 上のすべての送信機と受信機は異なる送信元アドレスまたは宛先アドレスによって特徴付けられる (XHUBVIA-109)
- > メイク・ビフォア・ブレイク方式のLive IPにおいて、ソースを複数回高速に切り替えると、受信側でビデオの受信が停止する可能性がある (MUL-19285)。
- > Live IPでは、受信機を再設定すると、Web Config内の他の受信機のステータスに一時的に影響する可能性があります。 (MUL-19459)

NMOS IS-05では、すべての受信機を一括更新する際に、更新が失敗する場合があります。 (MUL-19765)

同じビデオコーデックモジュールで2つのPGMを使用してMix-on-one-channelを使用し、334Mパケットエンコーダーを有効にすると、PGM出力に視覚的なアーティファクトが発生する場合があります (MUL-19219)。

- > Multicam PC-LAN DNS設定 (プライマリ、セカンダリ、ドメイン)は、アップグレード後に失われました。マルチカムバージョン (MUL-19468)
- > PGM/PRV の LSM-VIA では、Multicam が次のように構成されている場合、PGM チャンネルで補助トラックが再生されませんでした。PRVを補助トラック出力として使用する (MUL-18792)
- > IPDirectorでプレイリスト項目を移動した際に、LSM-VIAでプレイリストが更新されなかった (MUL-20182) LSM-VIAで、プレイリスト要素よりも長いトランジション期間を定義すると、プレイアウトチャンネルがアイドル状態になった (MUL-20035)
- > LSM-VIA では、同じサーバーで2人のオペレーターと作業する場合、2つのEVSリモートを宣言する必要があります。マルチカム構成 (MUL-18313)
- > ABRollにおいて、クリップをブラックチャンネル上にドラッグしても、ブラックスクリーンフラグが解除されない (MUL-18372)

IN 20.0.17

- > LSM-VIA では、検索 TC が重複した結果を返す可能性があります (MUL-19384)
 - LSM-VIAでは、新しいクリップの角度を遠方の角度に変更することは不可能でした (MUL-19343)。
 - LSM-VIAでは、未知の要素にオーディオの進行を定義すると、プレイリストを再生できません。スピード (MUL-18977)
 - > NMOS IS-04 では、サーバーの再起動後、受信機のマルチキャスト アドレスと送信元がノードレベルで設定されていませんでした (MUL-19108)
- NMOS IS-04では、サーバーの再起動後、NMOS内のすべてのリソースのリストが空になることがありました。ノード (MUL-18923)
- > Live IPでは、ST 2110-30ストリームで音声の不具合が発生する場合があります (MUL-19091)。
 - > ハードウェアチェックの実行中に、Mulboot中にシグナルアバートが発生する場合があります (MUL-19361)
 - > NMOS IS-05では、受信機のtransport_paramsを変更する際に宛先ポートが必要でした。 (MUL-15665)
- NMOS IS-05では、送信機または受信機を複数構成する際に、それらがロック状態になることがあります。短時間で複数回 (MUL-18823)
- > プレイリスト内のクリップをトリミングした後、同じクリップを再度挿入したところ、2番目のクリップの制限もトリミングされてしまいました (MUL-19096)。
- NMOS IS-05では、transport_paramsが指定されていない場合、受信機をアクティブ化できませんでした。 (MUL-14915)

IN 20.0.13

- LSM-VIAでは、非常に大規模な設定の場合、DB同期の問題が発生する可能性があります (MUL-18921)。
- LSM-VIAでは、非常に大規模なセットアップの場合、MediaInputコマンドとMediaOutputコマンドが失敗する可能性があります (MUL-18920)。
- マルチビューアでは、GPIまたはTSL経由でタリーを更新できませんでした (MUL-19079)
- > Live IP で作業する場合、PTP timeOfPreviousJam が未来の時刻である場合に対応するための保護機能が追加されました (MUL-18587)。

MV4を搭載したサーバーでは、MV4ログローテーションの問題により、Mulboot中にエラーが発生する可能性があります。 (MUL-16486)

- > NMOSログのサイズが継続的に増加していました (MUL-17705)
- M4Xを搭載したサーバー上の一部のシリアルコントローラでは、通信の問題が発生する可能性があります。 (MUL-18906)
- > NMOS IS-04では、ST 2022-7を使用する場合、セカンダリインターフェースのバインディングが誤っている場合がある。 (MUL-19188)
- XAVC (MUL-18928)でエンコードされた復元コンテンツを再生する際に、デコードの問題が発生する可能性があります。



- > Live IP構成では、ST 2022-7を使用してサーバーを数日間稼働させた場合、PTPが失われる可能性があります。(MUL-16710)
- > NMOS IS-05において、バルクコマンド使用時に誤ったコード応答が送信された (MUL-17542)
- > h.264を使用する場合、ジェンロックの乱れにより、HiResとLoResの間で同期ずれが発生し、エンコードの問題が発生する場合があります (MUL-16913、MUL-18655、MUL-17587)。
- > Live IPにおいて、複数の種類の補助データパケットを含むST 2110-40ストリームを受信した場合、出力ビデオが欠落することがあった (MUL-18994)。
- > ST 2022-7において、ソース切り替え時に二次補助データストリームが欠落していた (MUL-18934)。
- > Live IPにおいて、ストリームの購読解除を複数回行った後にメモリの問題が発生する可能性があり、他のストリームへの購読ができなくなる場合があります (MUL-19040)。
- > EditRecはM4Xを搭載したサーバーではサポートされていませんでした (MUL-18229)。

IN 20.0.7

- > IPDirectorから多数のクリップのTC INまたはTC OUTを同時に更新すると、サーバーがXNetネットワークから切断される可能性があります (MUL-18885)
- > Ember+ を使用した IP レシーバーの設定が、場合によっては遅くなる場合があります (MUL-14513)
- > 1080iおよび1080pにおいて、フィールドベースのコーデック (DNxHD、ProRes)を使用した場合、ミックスまたは のトランジション中にフラッシュが発生することがあります (MUL-18581)。
- > ST 2022-7において、ソース切り替え時にセカンダリ受信ストリームが欠落していた (MUL-18635)。
- > NMOS IS-05をST 2022-7と併用した場合、複製されたストリームが正しく更新されませんでした (MUL-18759)
- > SLSMレコーダーでは、Multireview用のMJPEGプロキシストリーミングが開始されませんでした (MUL-18833)

IN 20.0.4

- > 1080iおよび1080pにおいて、フィールドベースのコーデック (DNxHD、ProRes)を使用した場合、ミックスまたはワイプのトランジション中にフラッシュが発生する可能性がある (MUL-18581)。
- > NMOS IS-04において、ST 2022-7を使用した場合、マルチビューワーのセカンダリインターフェースのバインディングが間違っていた。(MUL-18216)

IN 20.0.3

- > NMOS IS-04では、送信側がSDPファイルの末尾に二重のCR/LFを挿入していた (MUL-18307)。
- > Live IP では、最初の Mulboot 中に Web Config を開いている場合、Make-Before-Break は使用されませんでした。(MUL-18297)
- > NMOS IS-05において、transport_fileセクションが欠落しているため、リソースを更新できませんでした (MUL-18425)。
- > Live IPにおいて、ストリームが非アクティブ化された際に、外部マルチビューワー入力がちらつくことがあった (MUL-18348)。
- > Live IPでは、外部入力がアクティブな場合、最初のマルチビューワー出力が黒くなるがありました。(MUL-18342)
- > IPDirectorでは、プレイリストパネルのカウントダウンが正しく表示されない場合があります (MUL-17643)。
- > NMOS/Ember+では、PTPドメインを変更した後、グランドマスタークロックが更新されませんでした (MUL-16504)。
- > NMOS IS-04では、マルチビューアIP入力用のインターフェースバインディングに2つの物理インターフェースが記載されている。(MUL-18273)
- > Live IPでPTPを使用する場合、TCの計算時にオフセットが考慮されないことがありました。(MUL-18259)

フィールドベースのコーデックでは、1080i の出力でビデオとオーディオの同期遅延が 1 フィールド発生する可能性があります。(MUL-18314)

- > が誤って検出され、ドライブが切断されるケースがありました (MUL-18364)。
- ギガビットインターフェースを変更した際に、VGA画面に警告が2回表示されました (MUL-15534)
- > LSM-VIAでは、プレイリスト要素を再トリミングした後、トランジション効果がカットに設定されていました (MUL-18221)
- XT-VIA の LSM-Connect では、フェードトランジションを使用するとタブレットがサーバーから切断される可能性があります。トランジションカラーが「白」のプレイリスト (MUL-17761)
- > MulSetupでクリアレコードトレーニングエラーメッセージを検証すると、設定行がすぐに開始されました。(MUL-18397)



IN 20.0.2

- > NMOS IS-05では、受信機のアップデート時にエラー504が発生する可能性がある (MUL-16215)。
 - > NMOS IS-05では、受信先アドレスが正しく更新されない場合がある (MUL-16752)。
 - > NMOS IS-05では、ソースアドレスが更新された際に、レシーバーのソースポートが0に設定されていました (MUL-16494)。
 - > NMOS IS-05 を介して送信者の SDP を取得する際に、コンテンツ タイプが間違っていました (MUL-15946)
- ST 2022-7 が有効な場合、I/O 構成を変更すると、SFP の割り当てが悪くなり、構成が無効になる可能性があります。
行が無効です (MUL-15754)
- > ST 2110では、空の補助データストリームを取り込んだ際に、それに関連付けられたビデオストリームが利用できませんでした。
(MUL-16187)
 - > 一部のレコーダーのLoResプロキシに音声が含まれていない場合があります (MUL-17722)。
 - > NMOS IS-04では、送信側と受信側のアクティブ状態が常に偽でした (MUL-15969)。
 - > VDR パネルからレコーダーを停止したとき、レコーダーの状態が正しく表示されませんでした。
OSD (MUL-15927)
 - > NMOS IS-05 を介して送信機を更新すると、送信機情報が更新されない場合があります。
ライブIP設定ページ (MUL-14956)
 - > Live IP 設定ページで受信機を更新した際、NMOS IS-05 では受信機が更新されませんでした。
(MUL-16337)
 - > NMOSとライブIP構成を交互に切り替える際に、NMOSコマンドが送信側に適用されない場合があった (MUL-17107)
 - > NMOS IS-05では、transport_paramsが指定されていない場合、受信機を有効にできませんでした (MUL-17757)。



既知の問題点と制限事項

問題

2021年2月30日以降

- NMOS IS-04では、サーバーを完全に再起動した後、ユニキャストDNS-SDを使用したリソース登録が失敗する場合があります。
HS-873 (MUL-29034)を装備
- > NMOS IS-04では、デバイスmanifestのベースURLが間違っています (MUL-28660)
- > NMOS IS-04では、自己エンドポイントが複製されます (MUL-28658)
- > NMOS IS-04 では、マルチビューオーディオを非表示または表示すると、/self ノード内のすべてのタグが重複 (MUL-28816)
- サーバーの起動中にウェブ設定を更新すると、Mulsetup メニューに矛盾した情報が表示される場合があります (MUL-28617)

2021年1月21日以降

- > Web設定からマルチビューHD出力フォーマットを変更しても、VGA設定画面 (Shift + F2)の値が更新されない (MUL-27981)
- > Live IPでは、正方形分割または2SIを使用するUHD-4Kにおいて、最初のレコーダーは3つの補助データストリームに関連付けられます。
(MUL-28192)

2021年0月24日以降

- > VIA License Manager では、VIA ライセンスを削除できない場合があります (MUL-27043)
- > LSM-VIAでは、第1要素と第2要素間の遷移効果を定義する際にPL持続時間が誤っている場合があります (MUL-28417)

2023年7月20日以降

- LSM-VIAをPGM/PRVで する場合、プレビューチャンネルを制御すると、カメラインデックスが表示されません。
マルチビューOSD (MUL-27428)

2020年7月29日以降

- > では、クリップを更新すると、クリップのLoResエッセンスからオーディオトラックが失われます (MUL-28377)。
基本構成を変更すると、LSM-VIAコントローラパラメータが非表示になる場合があります (MUL-26571)
- 誤ったDNSサーバーアドレスを設定した場合、ログの抽出に時間がかかる場合があります (MUL-26542)

2035年6月20日以降

- > LSM-VIA では、遠隔のプレイリスト要素がローカルサーバーにプッシュされている場合、再生できない可能性があります。
ショートモードとローカルオートが有効になっています (MUL-27149)

2021年6月20日以降

- > SNMP経由でオプションコードリストを利用可能にするには、Multicamを起動する必要があります (MUL-26463)。

2020年5月25日以降

- > XNetMonitorにおいて、PC-LAN #1の状態が不明と表示される場合があります (MUL-25376)。
- MulSetup でマルチカム構成に加えられた変更は、WebConfiguration には反映されません。
(MUL-25997)
- > VIA MAPでは、クリップのフィル&キーマタデータを設定することはできません (MUL-27736)



2026年3月20日以降

- > Dual PC-LAN では、2 番目のインターフェースがまったく表示されないか、「ダウン」と表示されることがあります。
XNet(Web)モニター (MUL-27742、MUL-27746)
- > NMOSをデュアルPC-LANモードで使用している場合、ユニキャストレジストリを使用すると、DNSとRDIが同じIPアドレスを共有している場合、DNSサーバーとの接続が失われる可能性があります (MUL-27539)。

2021年3月20日以降

- > Live IPでは、送信元アドレスと宛先アドレスが同じサブネットにない場合、ユニキャストはサポートされません。
(MUL-23001)
- ESM-VIAを使用している XT-VIA上のレコーダーの停止がまれに失敗することがあります (MUL-27696)。

2017年0月20日以降

- タイムラインを編集する際、マルチビューアの出力に残り時間情報が表示されません (MUL-16435)。
- Web Config を使用する場合、サーバーでデジタルオーディオの入出力が正しくマッピングされない可能性があります。
オーディオマトリックス (MUL-19324)

20.0.2以降

- > XHub-VIA Live IP 100G Enablerを使用したLive IPでは、送信元IPアドレスを0.0.0.0に設定できません (MUL-19408)。
- > ユニキャスト検出を使用する NMOS IS-04 では、セカンダリの場合、XT のリソースは RDI に登録されません
RDIはDNSに登録されているが、到達できない (MUL-27852)
- > -VIA では、クリップの作成または更新が、クリップを多数保持する別のサーバーが
同時にネットワークから切断されました (MUL-28282)
- ESM-VIAをPGM/PRVの「常時」モードに 場合、プレビューチャンネルに誤ったコンテンツやOSDが読み込まれることがある (MUL-27744)。
- > -VIAでは、ギガビットネットワーク経由でクリップをコピーする際に、クリップは正常に転送されているにもかかわらず、転送が失敗したと表示
される場合があります (MUL-27420、MUL-26810)。
- ESM-VIAを している場合、編集モード中にGPIからプレイリストの再生をトリガーすると、トランジション効果が再生されません (MUL-27401)。
- > XHub-VIA Live IP Aggregatorを使用している場合、動作中にXHub-VIAを再起動するとマルチキャストルートが失われます (XHUBVIA-5)。
- > MV IP入力の切り替え時に不具合が発生する場合があります (MUL-17762)
- XHub-VIA 100G Enablerを使用している場合、Multicamを数時間実行し続けると、パケットOKカウンターに負の値が表示されることがあります
(MUL-23543)。
- XHub-VIA 100G Enabler を使用すると、マルチキャストを複数回更新する際に、Thrift API 例外が発生する可能性があります。
ルート (MUL-26796)

2026年2月16日以降

- > NMOSの場合、NMOSソースではgrain_rateは公開されていません (MUL-15960)

2020年2月16日以降

- システムバックアップの遅延に関する警告がOSDに表示されない (MUL-16511)
- 分割画面の分離バーの色を設定する場合、U と V のインデックスは反転します (MUL-27037)
- > XNet-VIA では、サーバーをネットワークから手動で切断した場合、その後サーバーがネットワークに再統合されない場合があります (MUL-27228)。

バージョン16.0以前

- > SLSM と非 SLSM を 2 つの異なるプレーヤーにロードすると、プレイアウトが 1 フィールド (MUL-28253)
- Web Config で設定行を編集しているとき、別の行にフォーカスが当たっていると変更が反映されません。
Mulsetup の設定行 (MUL-27748)



VGA画面で無効な設定行が選択されている場合、Web Configから設定行を開始することはできません。
(MUL-16966)

- > SNMP Get の代わりに SNMP Walk を使用すると、SNMP の処理速度が非常に遅くなる場合があります (MUL-15978)
- > タイムラインの最後に黒いクリップのフレームが再生されることがあります (MUL-14566)
- > マルチビューワー出力のOSDは、ライブ再生とクリップ再生のプレイ 切り替える際に、更新に若干の遅延が生じる場合があります (MUL-14256)。

離れた場所にあるプレイリストをマージする場合、クリップ数が999個に制限されているにもかかわらず、1000個のクリップで構成されるプレイリストを作成できてしまう (MUL-8982)

- > IPDirectorでタイムラインにGPIとスワップオーディオの両方を使用している場合、置換タイムアウトが発生します (MUL-8972)。
- > CODA75を搭載したXT3で、ジョグホイールを使用してクリップ再生を停止すると、音声が歪む (MUL-9841)
- > ST 2022-06 出力ストリーミングは、ジェンロックの不安定性によって停止する可能性があります (MUL-8732)
- > TGEカードが正しく検出されない場合、マルチカム起動中にダンブが発生します (MUL-8628)
- > 1080pでSLSMレコーダーを設定した場合、高速ジョグ後にわずかな遅延が発生することがあります (MUL-7824)。

PRVチャンネルでAuxトラック出力を使用している場合、奇数PGMにプレイリストをロードすると、次の偶数PGMのオーディオに影響を与える可能性があります。
PGM (MUL-6035)

- > ビデオ遅延の基本設定には、リモートD (MUL-739)の設定が必要です。
- > この機能を持たないサーバー上で高度なオーディオ編集を使用してプレイリストを変更することは許可されていますが、問題が発生します。
(MUL-554)



制限事項

2021年2月30日以降

- > NMOS IS-04では、ユニキャストDNS-SDにおいてトップレベルドメイン.localはサポートされていません (MUL-29038)
- > AMPでは、プレイリストの再生はサポートされていません (MUL-29061)

2021年1月21日以降

- > LSM-VIA では、すべてのプレイリスト要素のプレイリスト要素速度を素早く更新すると、オーディオが分割されます。リセットされることがある (MUL-28071)

2021年0月24日以降

- > 21はXploreおよびLSM-Connect (MUL-27508)と互換性がありません。
 - > XHub-VIA IP Enablerがない場合、ネットワークのMV4X SFPインターフェイスを誤って構成すると、ブロードキャストアドレス、マルチカムが起動しない (MUL-27362)
- オプションコードによっては、VIA ライセンスマネージャから VIA ライセンスを追加および削除することはできません MulSetup画面 (MUL-27495)にウィンドウが開いています。
- > Multicam ライセンスを VIA ライセンスで拡張する場合、両方のライセンスには少なくとも 100% の重複期間が必要です。1日 (MUL-27972)
- デュアルPC-LANを使用する場合 (LSM-VIAおよびNMOS用)、両方のPC-LANインターフェイスは同じMACアドレス (MUL-27733)を共有します。

- LSM-VIAのデュアルPC-LANを する場合、XNet-VIAネットワーク全体を完全に可視化するには、各XTサーバーをPC-LAN #1インターフェイスを介してメインサーバーネットワークに接続する必要があります (MUL-27695)。
- > LSM-VIA 用のデュアル PC-LAN では、PC-LAN #2 を介して XT に接続するリモート オペレーターに対して、XSquare と Cerebrum の統合が保証されません (MUL-27721)
- LSM-VIA 用デュアル PC-LAN では、マルチ は、プロキシ ストリーミング (B1) インターフェイス (MUL-27722) と同じネットワークにある PC-LAN インターフェイスを介して XT に接続するオペレーターのみが利用できます。
- > LSM-VIA 用 Dual PC-LAN では、リモート XClient への IP ルートは、到達可能な場合にのみ追加されます。経路設定の瞬間 (MUL-27723)
- ウェブ設定から設定行をエクスポートする際、一時的に白いフラッシュが表示されることがあります。 (MUL-27651)
- LSM-VIAでは、クリップグループを作成した直後にそのグループを削除すると、失敗する場合があります (MUL-27761)。

2020年7月29日以降

- LSM-VIAでは、PGMIにプレイリストがロードされている状態でマルチレビューを有効にすると、残り時間は表示されません。MV4Xプレビューチャンネルに正しく表示されます (MUL-27290)
- > XHub-VIA 100G Enabler を使用する場合、SDI から XiP に変更する際には、サーバーの完全な再起動が必要です (MUL-27725)

2035年6月20日以降

- Xplore TGE2ボード (MUL-26945)を搭載したXTサーバーとは互換性がありません。
- > Multireviewは、TGE2ボード (MUL-26963)を搭載したXTサーバーとは互換性がありません。

2025年6月20日以降

- メモリオーバーフローによる一部のアプリケーションの動作不良を防ぐため、Ember+ サービスは週に一度再起動されます (MUL-26702)。



2021年6月20日以降

Fill&Key Dual オプションコードは、たとえそれが存在しない場合でも、すべてのシャーシタイプで永続的なオプションとして表示されます。
インストール済み (MUL-26431)

- > Spotboxの基本構成では、ビデオ遅延はビデオ遅延画面から設定できません (MUL-26770)。
 - > Live IPでは、フレームベースのコーデック (AVC-I,XAVC)を使用した1080iの場合、エンコード時に埋め込まれたタイムコードが1フレーム分シフトされます (MUL-24234)。
- 画面値が0のTSLメッセージのみが受け入れられます (MUL-25938)

2020年5月25日以降

- > クリアトレインを適用せずに構成変更 (レコーダー数の増加とプロキシコーデックの変更を含む)を行い、その後Multicamの実行中に電源をオフ/オンすると、システムを再起動したときに録画トレインが削除される可能性があります (MUL-25407)。
- > -VIAでは、プレイリスト内のクリップを分割する際に、マイクロミックスではなくハードカットを使用してクリップが分割されます。 (MUL-24818)

2020年4月31日以降

- > NMOS IS-05では、無効なコマンドは拒否されます (エラー428)が、以前は受け入れられていました。
NMOSに採用されたが、最終的にMulticam (MUL-24702)に拒否された。
- > NMOS IS-05では、MV出力に関連付けられたオーディオ送信器は読み取り専用で使用できます (MUL-24702)
- > NMOS IS-05では、ソースフィルタリングが有効になっていない場合、受信機ソースフィルタIPアドレスは利用できません。
アクティブ (MUL-24702)
- > XHub-VIAでは、バージョン1.3から1.4にアップグレードすると、カスタム設定が失われます (XHUBVIA-547)

2020年4月27日以降

- > XNet-VIA では、ほぼライブのプレイアウトはソースマシン (MUL-28637)
 - > XNet-VIA では、ビデオ遅延のある遠隔レコーダーを再生する場合、要求された遅延と比較して実際の遅延が9 フレームずれます (MUL-24152)。
 - > Multicam Webの設定において、サーバーへのファイルアップロード (キーワードファイル、ライセンスファイル、CA証明書)が失敗した場合、エラーメッセージは表示されません (MUL-23686)。
- XNet-VIAでは、ネットワーク帯域幅の容量を超過した場合、安定した状態に戻すためにすべてのネットワーク再生を終了する必要がある場合があります (MUL-26962)。
- > IPアグリゲータを使用した設定行を、IPアグリゲータを使用しない設定行にインポートすることはサポートされていません (MUL-23303)。
 - > XHub-VIA 100G Enablerを使用したLive IP環境で、DHCPを使用している場合、バージョン20.3以前にダウングレードするとMulticamが起動しなくなる (MUL-24276)。
 - > IPDirectorを並列モードで使用する場合、GP経由で「不明」に設定されたプレイリストをトリガーすると、デフォルト速度では、プレイリストが再生されません (MUL-24672)
 - > Live to Tape機能を使用すると、タイムライン編集時にMV4Xのオーディオメーターが一時的にフリーズする場合があります (MUL-25676)
 - > 1080p,59.94Hzの場合、OSDに表示されるクリップの残り時間が若干間違っている場合があります (MUL-25061)。
- Linuxでは、プレイリスト要素のオーディオゲインを設定することはできません (MUL-23048)。

2026年3月20日以降

デュアルPC LANの場合、両方のインターフェースを別々のネットワークに設定する必要があります (MUL-21937)

2021年3月20日以降

- > LSM-VIAを している場合、画面分割時に黒い分離線が表示されます (MUL-22298)。
- Odeticsプロトコルで allow_protocol_clear_all_clip jsonを使用しても、データベース全体をクリアすることはできません。
パラメータが有効化されました (MUL-18514)
- > 2つのレコーダーが同じマルチキャスト アドレスを購読する場合、ソース フィルタリングは両方のレコーダーで有効または無効にする必要があります (つまり、一方では無効、他方では無効) (XHUBVIA-433)。



- > 2110-31ストリームを取り込む際、データペイロード（3バイト）のみが保持されます。1バイトのメタデータは無視され、再生時に再構築されます（MUL-23027）。

2020年2月30日以降

- > Live IPでは、2つの異なるネットワークインターフェースにマルチビューア入力を割り当てた場合でも、警告メッセージが表示される（MUL-21424）。
 - > リンクアグリゲーションを使用してXHub-VIA v1とXHub-VIA v2を相互接続することはできません（XHUBVIA-397）。
- NMOS IS-05では、受信機アップデートの予定された起動が数秒遅れる場合があります。（MUL-24208）
- > NMOS IS-05 では、スケジュールされた絶対アクティベーションが、変更時に誤ったタイミングで適用される可能性があります。システム時刻（MUL-26886）

20.1.37以降

サーバーの起動が完了していない状態で TGE によってクリップが復元されると、マルチカムが正常に起動しない（MUL-20778）

2020年1月27日以降

- > XHub-VIA IP Aggregator を使用した Live IP では、同じ送信者のストリームで受信側を構成する場合 XTサーバーでは、送信元IPアドレスのフィルタリングが必須です（XHUBVIA-246）。
 - > -VIAでは、VLANがフォワードモードで設定されていない場合にのみ、IPルートの作成がサポートされます。（XHUBVIA-126）
 - > Sony BVW75で複数のPGMを制御する場合、同期再生は保証されません（MUL-24749）
 - > DHCP を介して Live IP ネットワーク インターフェイスを設定する際のタイムアウトは 10 秒です（MUL-24976）
- 音声以外のストリームを2110-30レシーバーにルーティングすると、ライブ画面でそのステータスが誤ってOKと表示されます。IP設定ページ（MUL-22136）

2013年0月20日以降

- EditRec を使用する場合、50Hz から 59.94Hz に切り替えると同期の問題が発生することがあります（また、（逆）コントローラーを再起動せずに（MUL-18535）
- > マルチビューワのライブIP入力を切り替える際に不具合が発生する場合があります（MUL-17762）

20.0.3以降

- > NMOS IS-04では、ST 2022-8プロトコルを使用する場合、音声送信機と受信機が欠落している（MUL-18510）。
- > Live IPにおいて、ST 2022-7以外のペイロードでST 2022-7受信機をパッチすると、複製されたストリームの送信元IPアドレスが意図せず変更される（MUL-18285）。
- > IPDP制御がいくつかのチャンネルでアクティブになっている場合、VDCP制御が失われる可能性があります（MUL-15764）

20.0.2以降

- > 59.94 HzのLSM-VIAでは、プレイリスト効果の持続時間を20秒と定義することはできません（MUL-12606）
 - > Live IPでは、Live IPファブリックスイッチをIGMPスヌーピングエリアをサポートするように構成する必要があります（MUL-19982）。
 - > Live IPでは、マルチビューワ入力は狭帯域送信タイプのみをサポートします（MUL-25786）
 - > EditRecを使用する場合、可変再生速度は再生速度に影響しません（MUL-17765）
 - > UHD-4K環境でXHub-VIA Live IP 100G Enablerを使用したLive IPでは、帯域幅の制限によりPGMのChar OUTモニタリングを無効にする必要があります（MUL-15574）。
 - > XHub-VIA 100G Enablerを使用したLive IP環境で、ネットワークスイッチがIGMP v2を使用したマルチキャストエリアとして構成されている場合、入力スッチングがクリーンにならない可能性があります（MUL-26953）。
 - > XHub-VIA Live IP Aggregatorでは、QSFPインターフェースでRS-FECのみがサポートされています（MUL-15931）
- PTPドメインを変更するには、XHub-VIA Live IP 100G Enabler（XHUB-31）を再起動する必要があります。
- LSM-VIAが有効になっている場合、Hypermotionコントローラはサポートされません（MUL-18302）。
- > LSM-VIA コントローラーをマルチカムで無効にした後、LSM Remote からプレイリストをロードする場合 LSM-VIAがサーバーに接続されているが、プレビューチャンネルのOSDに不整合がある（MUL-27764）



LSM-VIAでは、最後のプレイリスト要素に移動してループモードを有効にすると、再生がプレイリストの最後に停止します (MUL-25855)。

- > LSM-VIA では、PL11 を除くすべてのプレイリストでプレイリスト項目の未知の速度を定義することはできません。
高度な音声編集機能はマルチカム (MUL-27743)で有効です。

LSM-VIAでは、ネットワーク経由でクリップをコピーする際に、まれに失敗する場合があります (MUL-27019)。

- > -VIAでは、RMT1でGPIを設定すると、GPI信号はすべてのチャンネルに印加されます。
LSM-VIAオペレーター (MUL-24443)
 - > -VIAでは、多数の要素を含む既存のプレイリストに複数のクリップを挿入する場合、LSM-VIAは
999要素の制限を超えた場合に警告を表示する (MUL-26046)
- LSM-VIAでは、INキーを押してブラウジングすると、OSDの残り時間が一定しない場合があります。
異なるネットワークカメラのアングル間 (MUL-18714)
- > -VIAでは、ローカルサーバーをSDTIネットワークから切断すると、LSM-VIAがローカルサーバーから切断されることがある (MUL-27137)。

- > LSM-VIAでは、別の場所からそのプレイリストを閲覧しながら、プレイリストを TC IN でソートします。
リモート環境でLSM-VIAがフリーズし、プレイリストを読み込むことができなくなる場合があります (MUL-26561)。
- > Multicamの実行中にLSM-VIAを無効にすると、タイムライン編集モードのOSD情報は次のようになります。
間違い (MUL-28350)

LSM-VIAでは、ネットワーク上のすべてのマシンが同じフレームレートでない場合、XNet-VIA経由で遠隔地のレコーダーを再生できない可能性があります (MUL-28602)。

- > Multicamの実行中にLSM-VIAを無効にすると、タイムライン編集モードのOSD情報は次のようになります。
間違い (MUL-28350)

2018年4月16日以降

- > VGAビューアはQWERTYキーボードで使用可能な文字のみをサポートします (MUL-25227)
- > VGAビューアは「_」と「+」文字をサポートしていません (MUL-28527)

2017年3月16日以降

ST 2022-7で作業していて、プライマリおよび/またはセカンダリのChar OUTモニタリングストリームがある
無効化されたが、SDPIはST 2022-7形式で公開されたままである (MUL-15532)

2030年2月16日以降

- > NMOS IS-04では、NMOS IS-05を介して送信機または受信機をアクティブ化または非アクティブ化しても、「アクティブ」パラメータは更新されません (MUL-15972)。
- 非常に低ビットレートのビデオコンテンツを使用して、XNet (XNet-VIA または SDTI) を介してリモート録画列車を再生する場合、音声が一時的に途切れることがあります (MUL-14352)。
- > XiPでは、レコーダーチャンネルのモニタリングストリームを同じレコーダーチャンネルに取り込むことはできません。
SFPインターフェース (MUL-14469)

2026年2月16日以降

- > NMOS IS-05では、無効化された受信機のステージングはサポートされていません (MUL-14935)
- > NMOS IS-05では、トランスポートファイルを提供すると、受信側のマルチキャストIPとソースIPは更新されません。
データがnullの場合 (MUL-24721)

2020年2月16日以降

- > NMOS IS-04では、マルチカム構成でオーディオモニタリングがRec または None に設定されていても、マルチビューワのオーディオ送信機が公開されたままになります (MUL-16681) XHub-VIA Live IP 100G
Enabler がない場合、シングルストリームの UHD-4K は 50Hz でのみサポートされます (MUL-12941)



2022年1月16日以降

- > をTCソースとして使用している場合、PTPを切断してもサーバーはフリーランモードに切り替わりません。
ソース (MUL-25317)
- ジェンロックソース (PTP - SDI)を変更すると、一時的にジェンロックが不安定になる場合があります (MUL-11977)
- > Live IPでは、CインターフェースとDインターフェースに2つの異なるPTPクロックがあり、アナログLTCを使用している場合
タイムコード参照、タイムコードが不良と判断されました (MUL-22506)
- XNet-VIAでは、XTサーバー参照がない場合、遠隔録音再生がフリーズすることがあります。
同期済み (MUL-24225)
- > XNet-VIAには安定したジェンロック基準信号 (MUL-27501)が必要です

2016年0月30日以降

- > XT-VIA/XS-VIAで、XT3/XS3から3GレベルBを使用して1080i構成ラインをインポートすると、SLSM
コンテンツは記録されていません (MUL-26737)
- > XT-VIA/XS-VIAでは、ビデオ遅延モードでカメラ割り当てのリセットが機能しません (MUL-17027)
- > XT-VIAのUHD-8Kでは、サポートされていないマルチビューワーレイアウトが構成にリストされています (MUL-15913)。 XT-VIA/XS-VIAでは、
720p、1080i、1080pで、PGMおよび4の構成ではPTPはサポートされていません。
またはそれ以下の録画チャンネル (MUL-14276)
- > XT-VIA/XS-VIAでは、UHD-4Kにおいて、PGM非搭載構成および録画チャンネルが2つ以下の構成ではPTPはサポートされていません (MUL-14276)。

プリロードの改善により、遠距離レコード列車の積載時にわずかな遅延が発生する可能性があります (MUL-10665)

高帯域幅チャンネル構成では、RAIDアレイを (10+1)モードで構成する必要があります (MUL-10081)

- > VGAで「なし」に設定された埋め込みオーディオチャンネルは、Web設定からミュートを解除できません (MUL-10061) クリップをエクスポートする
と、名前のコロンが空白に置き換えられます (MUL-11854)

バージョン16.0以前

- > UHD-4Kで2SIを使用する場合、位相を誤った順序で配線すると、OSDのエラーメッセージが不完全になります (MUL-27334)。
- > Ember+ BESSでは、設定変更時に送信者と受信者の説明が動的に更新されません。
(MUL-27189)
- > UHD-4Kで2SIを使用する場合、位相を誤った順序で配線すると、OSDのエラーメッセージが不完全になります (MUL-27334)。
- > Ember+ BESSでは、設定変更時に送信者と受信者の説明が動的に更新されません。
(MUL-27189)
- > LinXでは、VDRパネルから再生を開始した後、クリップの読み込みが拒否される場合があります (MUL-27952)。
- > 1080iでSLSMコンテンツを非常に低速で再生すると、出力に水平方向の線状のちらつきが発生することがあります。
(MUL-28030)

オーディオ遅延のあるプレイリストをフラット化する場合、オーディオのトランジションが誤ったタイムコードで発生する可能性があります (MUL-27892)

- > Live IPでは、NMOS更新のための受信側切り替え時間が最大2秒かかる場合があります、SDNベースの設定ではグレー画像が発生する可能性がある
(MUL-26755)。

プレイリストをジョギングしているとき、プレイリストを変更するとマルチビューアに一時的に「-IN」と「+OUT」が表示されます。
要素 (MUL-27717)

フォーマットとインストール中にネットワーク設定を構成する際、Shift+Tab キーが認識されない (MUL-27813)

- > IPDirectorでは、同じ制御システムによって制御されているサーバーをXNetに追加する際に、OSDが一時的にフリーズすることがあります。
IPDirectorは、ローカルのXTサーバー (MUL-27510)を介して動作します。
- > MulSetup画面でオプションコードウィンドウが開いている場合、Web設定からオプションファイルをアップロードすることはできません (MUL-27381)。

現在アクティブな行ではない設定行を編集する場合、パラメータの変更が正しく表示されないことがあります。

適切に適用された (MUL-27412)

同じ名前の複数のチャンネルを定義する場合、Web 設定でのマルチビューアチャンネルの割り当ては

間違っているかもしれない (MUL-26261)

- > SNMPが実行されていないサーバーに接続しようとすると、VGA Viewerがクラッシュする場合があります (MUL-25414)。
- > LSM Remoteを使用すると、設定メニューへのアクセスがサーバーのパフォーマンスに大きな影響を与える可能性があります。
(MUL-26821)
- > 1台または複数のレコーダーでオーディオトラックを複製する場合、最後に設定されたトラックのオーディオゲインは
すべてのクローン (MUL-26465)で複製された
- > HS873を搭載したサーバーでは、Multicam USB Creator 1.4以降を使用した場合、フォーマットとインストールが失敗する可能性があります (MUL-24808)。
- > IPDirectorを使用してPGMからクリップを取り出した後、VGA画面からメディアを読み込んでもPGMが真っ黒なままになる (MUL-26280)



- > GPIでは、レコーダー上でマークIN/OUTポイントを定義することはできません（MUL-13121）。
 - > マルチカム構成でいくつかの動作/パラメータを変更すると、ポップアップが表示され、いくつかの変更が反映されることがあります。別のユーザー（MUL-19524）によって既に実施済みです。
- マルチカムVGA構成でGPI INチャンネルを逆方向にブラウジングすると、最後のPGMが欠落します（MUL-26658）
- 有効な PTP と TC 入力がない状態でサーバーを XiP 構成で実行すると、システムの不安定性が発生する可能性があります。（MUL-25458）
- メンテナンスメニューから2つのマルチカムバージョンを削除すると、現在アクティブなマルチカムバージョンが起動します。（MUL-25950）
- LSM リモコンの電源をオン/オフすると、以前に操作していない場合は再生速度が 100% に達しない場合があります。レバーを0%まで下げる
- > Odeticsプロトコルでは、バースト的なキープアラートメッセージを受信した場合、SNMPコントローラの接続ステータスが切断状態を示すことがあります（MUL-21995）。
 - > TSL 5.0では、UTF16エンコーディングを使用している場合でも、プレーヤー名に特殊文字が含まれていると更新できません（MUL-25249）。
- メンテナンスメニューからTC Refへの再同期を実行すると、ディスクに保存されているAVコンテンツのTCインデックスは変更により、LSM-VIA、JPD-VIA、LSG（MUL-21906）に影響を与える可能性があります。
- > Ember+ BESSでは、ストリームに訂正不可能なエラーが含まれている場合でも、「ストリーム障害」フィールドがfalseに設定されます（MUL-25171）。
- PC-LAN冗長構成を使用する場合、両方のネットワークインターフェースは異なるVLANに接続する必要があります。（MUL-23803）
- > Live IPでは、224.0.0.0〜224.0.1.255の範囲のマルチキャスト宛先アドレスはブロックされません（MUL-23361）。
 - > IPEdit では、アンドゥ コマンドが Multicam（MUL-13525）に反映されない場合があります。クリップ作成前にクリップを再トリミングすると、新しい境界はコントローラーにロードされたカムにのみ適用されます。（MUL-22914、MUL-317）
 - > 制御対象チャンネルがPRVモードの場合、Search TCの結果はマルチビューア出力に表示されません。（MUL-15862）
 - > 334M/パケットエンコード設定は、同じV4Xモジュール（MUL-22012）のすべてのレコーダーチャンネルに適用されます。
 - > LinXでは、遠距離記録列車をロードする際に制限を設定することはできません（MUL-14147）。
 - > マルチビューア出力のOSDは、ライブ再生とクリップ再生のプレイリストを切り替える際に、更新に若干の遅延が生じる場合があります（MUL-14256）。
 - > ライブIP設定は、トラックマネージャーアプリケーションからアクセスできません（MUL-13155）
 - > 1080iでは、多数の要素を含むタイムラインを操作する際に、マルチビューアのタイムコードOSDが不規則になる場合があります。（MUL-12242）
 - > Live IP で作業する場合、224.xx の範囲のマルチキャスト アドレスは、ビデオ、オーディオ、および補助データにはサポートされていません。（MUL-15135）
 - > クリップを押し込む際に、同じXTIに同時に複数回押し込むと失敗する（MUL-9291）
- OSDタリが「Char OUT + MVW」に設定され、GP経由でトリガーされた場合、タリはChar OUTには表示されません。（MUL-8733）
- > 水平分割が有効になっている場合、遠方の列車にインポイントを設定することはできません（MUL-8053）。
 - > ハイパーモーションカメラForA_FTOne 6.50を4ブロックモードで使用すると、ブロック3と4を閲覧しているときにブロック1と2がReadyToRecordに切り替わります（MUL-4057）。
- USBキーJetFlash TranscendバッチA850130373（MUL-3040）を使用してインストール中にUSBキーが消える場合があります
- > HS-873 MTPCはUSB HIDコンポーネントデバイス（MUL-6104）をサポートしていません。
 - > CODA75オーディオボードを搭載し、デュアルプレイ構成になっているサーバーにおいて、最初のレコーダーの音声最後のPGMIに誤って関連付けられる（MUL-3631）。
 - > デュアルLSMモードでの操作には、いくつかの制限があります。
 - タイムラインは最初のリモートでのみ利用可能です
 - プライマリコントローラーとして使用できるのはLSMリモートのみで、並列制御がサポートされています。
 - o 置換機能は最初のPGMでのみ利用可能です
 - o Epsio Liveの操作は最初のPGMでのみ利用可能です
 - o Hypermotionカメラの制御は、2番目のリモコンのトグルモードでのみ利用可能です。
 - > XNetネットワークへの接続フェーズ中にローカルクリップを作成することはできません（MUL-2461）。
 - > レコーダーモジュールのループスルーにはVITCは埋め込まれていません（MUL-836）
- ビデオディスクがいっぱいになり、構成で入力数が減少した場合、レコーダーが自動的に起動しないことがあります。
- Multicamの再起動時に発生する問題（バグID 89602）
- > マシンAからマシンBのクリップを再生します。クリップが放送中であっても、マシンBからクリップを削除することが可能です（MUL-844）。
 - > プレイリスト内のクリップのショートインでオーディオトラックを入れ替えると、クロスフェードが適用されない（バグID 83621）
 - > 1チャンネルでのミックスはEpsio Liveと組み合わせて使用できません（バグID 35001）
 - > プレイリストがロードされ、プレイリストの終わりに達した状態で、IPDPセカンダリコントローラーを非アクティブ化するとOSDが消える（バグID 32516）
 - > LSMリモートとIPDirectorがPGMチャンネルを並行して制御していて、OSDがプレイリストをロードしているコントローラーとは異なるコントローラーに設定されている場合、プレイリストOSD情報の一部が欠落することがあります（バグID 32533）。



マルチカム設定ページでは、設定行にフォーカスが設定されている場合、技術的なOSDが破損する可能性があります。

ビデオ規格がサーバーのジェンロックと一致していません (バグID 32791)。

- > Hypermotionカメラ使用時、LastCueボタンを押した際にOSDの色が1〜2秒間誤った色になる (バグID 14021)
- > 再生が中断された場合、クリップがAsRunLogに記録されない (バグID 13241)
- > プレイリスト編集モードの「その他のアングル」機能は、録画開始時刻から24時間以上遅れたタイムコードを持つクリップでは動作しません (バグID 13826)。
- > 3つのPGMチャンネルを使用している場合、PGM1/PGM2にIPDPタイムラインがロードされていると、SDTI F9接続ウィンドウが表示されない (バグID 14074)
- > ギガビットをブッシュする：
 - o SDTIネットワーククリップをギガビット経由でギガビット専用サーバーにブッシュできない (バグID 12864)
 - o クリップを保存する前にその場で操作すると、クリップ情報 (名前、キーワード、評価)に変更が加えられます。ブッシュされない (バグID 12847、12848)
 - o ギガビットブッシュクリップのID宛先は0 (110、111、112、...)から始まりますが、SDTIの宛先IDは1 (111、112、...110)から始まります。(バグID 12811)
- > 遠距離列車と近距離列車を制御する異なるPGMからのクリップ作成 :さまざまなPGM上で入出点を連続的にマークすると、入出点がリセットされる可能性があります (バグID 8176)
- > リモートメニューを開くと、セカンダリコントロールが無効になる場合があります (バグID 8439)
- > タイムライン編集モード中にVDRパネルを使用すると、PGMの音声が見失われる場合があります (バグID 31441)。
- > ソニーのVITCタイムコードは、ソニーのギャングモードでは利用できません。ソニーLTCとソニータイマーモードでのみ利用可能です。

キーワードファイル名は8文字までです

- > IP Directorでクリップを再トリミングしても、影響するのはIP Directorのみで、リモートオペレーターには影響しません。また、その逆も同様です (バグID 6651)。
 - > sort-TCを実行して結果リストを取得し、最初にLiveボタンを押さずにプレイリストを読み込みます。ブラウズボタンを使用すると、ユーザーはプレイリストではなく、検索結果のブラウズ画面に戻ります。(バグID 6276)
 - > プレイリストの「元に戻す」コマンドは、「ローカルにする」コマンドには適用されません (バグID 5515)。
- 再生リスト読み込み条件でタイムラインを読み込むことができません (バグID 5365)
- > プレイリストを編集する際、プレイリスト画面内のすべてのプレイリストの再生時間が一時的に影響を受けます (カットモードのように計算されます) (バグID 5333)

- > 画面分割モードでは、オーディオメーターはPGM1にのみ表示され、PGM2には表示されない (バグID 5056)
- > SDTIネットワークでは、サーバーが接続されていないスレーブXHubからネットワークケーブルが取り外された場合、マスターXHubは一時的にスレーブXHubとの接続を切断し、ネットワーク障害を引き起こす可能性があります。
- > VDCPプロトコルはリモコンの二次制御として設定できません。
- > タイムラインの制限事項：
 - o 最低2つのPGMが必要です
 - o TimeLine機能は、XTサーバーの最初のリモートでのみ利用可能です。
 - o 名前が変更されていないレコーダーから作成されたクリップを延長する場合、クリップ名は次のように変更されます。
ネット番号_ネット名 (MUL-7156)
 - o 要素速度を正確に400%に設定することはできません (MUL-23085)
 - タイムラインの最小速度は20%です (MUL-22550)。
 - o プレイリストから変換されたタイムラインでは、オーディオの入れ替えはサポートされていません (MUL-27425)
 - o IPDirectorで作成され、LSM Remoteを使用して読み込まれたタイムラインでは、オーディオ3と4の残り時間が正しく表示されない場合があります (MUL-23113)
- > 最初のリモコンの最初のPGMでプレイリストモードを使用している場合、AuxトラックパラメータがPGMに設定されていて、現在のプレイリストにAuxクリップが定義されていない場合、オーディオはプレイリストの元のオーディオに自動的に置き換えられません。これはバグではありません。
「AuxトラックをPGMに」の設定は、現在のプレイリストにAuxトラックが定義されている場合にのみ使用してください。
- > インターレースモードでは、クリップを連結する際にパリティ違反を避けるため、IN点とOUT点は偶数フィールドにのみマークできます。オペレーターが奇数フィールドにIN点またはOUT点をマークした場合、LSMは実際には次の/前の偶数フィールドにマークし、そのフィールドにジャンプします。プログレッシブモードでは、IN点とOUT点はすべてのフィールドにマークできます。

プレイリストを再生しているとき、トランジション効果中は「次へ」、「スキップ」、「オーディオスワップ」は受け付けられません。また、次のトランジションが分割オーディオ (オーディオとビデオの入力ポイントが異なる、またはビデオとオーディオのエフェクトの持続時間が異なる)の場合も同様です。

- > VFadeトランジションを含むプレイリストを再生して「次へ」をクリックすると、トランジション効果の持続時間が正しくない (MUL-28003)

ライブ境界のカスタムカラーを定義するために YUV パラメータを調整すると、対応するカラーが表示されません

メイン出力。

- > ジョグダイヤルでカメラを検索している間は、別のカメラに切り替えることはできません。ジョグダイヤルを停止し、新しいカメラに切り替えてから、再びジョグダイヤルを開始してください。
- > リモート録画列車では、同じPGM上で再生中の別のカメラに切り替えることはできません。新しいカメラは常に一時停止状態で表示されます。
- > 10ページのプレイリストは、他のRS422プロトコル専用であるため、EVSリモコンからは利用できません。
- > 設定で「クリップページの保護」パラメータをリセットしても、既存のクリップの保護状態はリセットされません。
- > クリップが作成される前に、アーカイブ対象としてフラグを立てることはできません。
- > 設定画面 (Shift+F2) :ローカルクリップとネットワーククリップの数は、この画面に入ったときにのみ更新されます。
- > 遅延画面 (Shift+F7) :NTSC NDFモードで動作している場合でも、この画面のタイムコードはDFベースで計算されます。



- > デフォルトの表示モードはVGAです。アップグレード時にも、デフォルトモードは維持されます。Multicam アプリケーション内で ALT+Backspace を押して VGA モードとビデオモードを切り替えると、場合によってはシステムがネットワークから切断されることがあります。再接続するには、アプリケーションを終了して再起動するしかありません。この問題は必ずしも発生するわけではありませんが、可能な限り Multicam アプリケーション内で ALT+Backspace を使用しないでください。Multicam の実行中に ALT+Backspace を使用すると、その時点で記録されたビデオファイルに 00:00:00:00 TC がマークされることもあります。
- > クライアントがクリップを別のクライアントにプッシュすることはできません。
XTサーバーでプレイリストを作成して読み込みます。ライブに戻って別のマシンに移動すると、最後にあったクリップ
プレーヤーに読み込まれると、プレイリストを再読み込みすることはできなくなります。
- > ネットワーク トレインの後にクリップまたはプレイリストをロードし、キューをライブとしてマークすると、キューはローカル トレインにマークされます。
既に読み込み済みのネットワーク列車上で。
- > ターゲットトラッキングにおけるレコード列車のOUTポイントでのフリーズは、PLAY VARモードでのみ機能しません。通常再生では問題ありません。
- > リモコンで検索を行った後、ブラウズ機能は常にクリップ検索結果を閲覧するため、「ライブ」ボタンを押さない限り、リモコンのクリップを閲覧することはできなくなります。



互換性

ソフトウェア

- ▶ Multicam 21.2.41 Multicam USB Creatorのバージョン1.5.20（またはそれ以降）と互換性があります。
- ▶ Multicam 21.2 LinX 3.1以降が必要です
- ▶ Multicam 21.2 VGA Viewer 1.0.5 以降が必要です。

ハードウェア

XT-VIA / XS-VIA / XT-GO

HWエディション マルチカム12 マルチカム14 マルチカム15 マルチカム16 マルチカム20 マルチカム21						
6.xx				X	X	X

- ▶ Multicam 21 XT-VIA, XS-VIA, XT-GOのみに対応しています。
- ▶ SFP+ - SDIアダプタ 背面パネルを損傷することなく最大100回抜き差しできます。
- ▶ M4Xボードを搭載したサーバーは、Multicam 16.4以降でサポートされています。
- ▶ 21はMTPCボードA3/A5（HS-873）以上に対応しています。
- ▶ 21はXFile2と互換性がありません。代わりにXFile3を使用してください。
- ▶ SASドライブはMulticam 10.01.73以降でサポートされています。
 - EVSが提供するSASドライブのみがサポートされます
 - 10K3ドライブを使用したRAIDアレイは、メンテナンスのために10K5または10K6ドライブを追加して構成できます。
 - 10K5ドライブを使用したRAIDアレイは、メンテナンス目的で10K6または10K8ドライブを追加して構成することができます。
 - 10K6ドライブを使用したRAIDアレイは、メンテナンス目的で10K8または10K9ドライブを追加して構成することができます。
 - 10K8ドライブを使用したRAIDアレイは、メンテナンス目的で10K9ドライブを追加して構成することができます。
 - RAIDアレイ内のすべてのディスクは、同じ容量である必要があります。
- ▶ 1.8TBドライブはMulticam 15.00以降でサポートされています。
- ▶ XiPリアパネル搭載サーバーは、EVSスモールフォームファクタプラグイン式SFP+ - SDIアダプタと互換性があり、SDI環境での作業時にすべてのI/O構成をサポートします。
- ▶ Multicam 21 XT1, XT2, XT2+, XS 6U, XS 5U, XS 4U, XT3, XS3, XT4K, XS4K, XTnanoには対応していません。XSnanoシャーシもなし
- ▶ XDCAM コーデックは Multicam 16 以降サポートされていません。
- ▶ Multicam 14以降、タッチスクリーンはサポートされていません。
- ▶ マルチカム15以降、ギガビットH3Xiはサポートされていません。
- ▶ COHXベースはMulticam 15以降サポートされていません。
- ▶ H3XコントローラーはMulticam 16以降サポートされていません
- ▶ CODA75オーディオボードはMulticam 16以降サポートされていません。
- ▶ Quad-MTPCマルチビューワーはMulticam 16以降サポートされていません
- ▶ Multicam 14以降、Wacomタブレットはナビゲーション目的ではサポートされていません。

XNet

- ▶ Multicam 21.2.41 の XNet ネットワークは、特定の検証済みバージョン 21.2.30 以降とのみ互換性があります。他の下位バージョンとは一切互換性がありません。
 - ▶ LSM-VIAでは、すべてのXNetネットワーク操作において、PC-LAN経由でリモートサーバーへのアクセスが必要となります。
- XNetネットワーク内のすべてのサーバーに同じマルチエッセンス構成を適用する必要があります。
- ▶ XNet-VIAはEVS XHub-VIAとのみ互換性があります
- XNet-VIA H4X_4Sボードの最新ファームウェアバージョンが必要です。
- ▶ 21はXHub3のV4.01以降に対応しています。
 - ▶ XHubのアップグレードが必要な場合は、EVSに連絡してアップグレードソフトウェアと手順を入手してください。
 - ▶ 不明な場合は、以下の手順でXHub3のバージョンを確認できます。



- o バージョンスイッチを上に移動
 (この操作ではXHubの電源を切る必要はなく、バージョンチェック中も通常通り動作します。)

- o ブランチステータスLEDは、ソフトウェアバージョンをバイナリパターンで表示します。

ブランチLED #	1	2	3	4	5	6	7	8
v. 3.03		緑	緑	赤			緑	緑
バージョン3.04		緑	緑	赤		緑		
バージョン4.00	緑			赤				
v. 4.01	緑			赤				緑

通常のLED動作に戻すには、バージョンスイッチを下に動かしてください。



EVS放送機器SA

RUE DU BOIS SAINT JEAN 13、B-4102 SERAING、ベルギー

著作権 © 2003-2025 EVS Broadcast Equipment SA.全著作権所有。

本リリースノートは、EVSの事前の書面による同意なしに、全体または一部を複製、転記、保存（データベースまたは検索システムへの保存）、
いかなる言語、コンピュータ言語への翻訳、電子的、機械的、印刷、複写、光学的、手動その他いかなる形式または手段によっても送信することはでき
ません。

すべての製品名およびブランド名は、EVSまたはそれぞれの所有者の登録商標または商標です。

EVS.COM